

**上智大学大学院法学研究科法曹養成専攻**

**自己点検・評価報告書**

**(2013年7月～2016年3月)**

**上智大学大学院法学研究科法曹養成専攻**

**自己点検・評価委員会**

**2016年(平成28年)6月**

## まえがき

上智大学法科大学院は、大学院法学研究科の一専攻（法曹養成専攻）として設置されている。上智大学は、大学単位での自己点検・評価制度を1995年から導入しており、直近では、2015年度の自己点検・評価報告書を2016年5月に公表している。

(<http://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/data/jikotenken>)。本法科大学院についての自己点検・評価は、こうした従来の大学全体の制度枠組みの中でも行われている。

その一方で、法科大学院は、専門職を養成するための独立性を持った機関であり、5年に1度、外部の認証評価機関による第三者評価を受けなければならない。本法科大学院に対する大学評価・学位授与機構による直近の評価は、2012年度に行われ、「平成24年度実施法科大学院認証評価報告書」により、本法科大学院が同機構が定める法科大学院評価基準に適合しているとの評価結果が出されている(<http://www.sophialaw.jp/pdf/houkokusyo.pdf>)。

上記のような大学としての自己点検・評価制度や、認証評価機関による第三者評価に加えて、本法科大学院では、独自の自己点検・評価制度を設けている。そこでは、自己点検・評価委員会及びFD委員会等を中心に自己点検・評価を行う体制を作り、定期的に、自己点検を行うとともに、外部の第三者に対して状況を示して評価を得るべく外部評価委員制度を設置して、外部評価を毎年実施している。現在の外部評価委員は、江頭憲治郎早稲田大学法務研究科教授、原壽長島・大野・常松法律事務所弁護士、酒巻匡京都大学大学院法学研究科教授である。

本自己点検・評価報告書（2013年7月～2016年6月）は、直近の3年間における、このような本法科大学院の自己点検・評価及び外部評価委員による評価の結果をまとめたものである。

本報告書は、2部構成になっている。第Ⅰ部は、本法科大学院における教育活動等に関する自己点検・評価の結果であり、第Ⅱ部は、本法科大学院に所属する教員の研究及び教育上の業績、学外での公的活動、社会的貢献活動等についての記録である。これらはともに2013年7月から2016年3月の期間を対象にしている。

なお、本法科大学院では、法科大学院の教育活動等に関する重要事項に関しては、上智大学法科大学院のホームページ上で随時公表している。また、毎年度の教育内容にかかわる重要事項については、各年度の「法科大学院履修要綱」に記載し、当該履修要綱を法科大学院ホームページからダウンロードできる形にすることによって広く一般にも公表している(<http://www.sophialaw.jp/>)。また、法科大学院所属教員の教育・研究活動、社会活動等については、「上智大学教員教育研究情報データベース」(<http://librsh01.lib.sophia.ac.jp/scripts/websearch/index.htm?lang=ja>)を通じて、随時公表している。本法科大学院の状況については、これらの情報も適宜ご参照されたい。

2016年6月

法科大学院長 田頭 章一

上智大学法科大学院 自己点検・評価報告書（2016年6月発行） 目次

まえがき	1
目次	2
第 I 部 教育活動等に関する自己点検・評価の結果	5
第 1 章 教育の理念及び目標	6
1-1 教育の理念及び目標	
1-2 学生の在籍及び進級・修了の状況	
1-3 教育の成果	
(1) 司法試験の結果	
(2) 進路状況	
第 2 章 教育内容・教育方法	13
2-1 教育内容	
(1) カリキュラムの概要	
(2) 教育方法	
2-2 授業規模	
2-3 教室外における授業の実績	
2-4 履修科目登録単位数の上限	
2-5 教育内容・教育方法に関する自己点検・評価	
第 3 章 成績評価及び修了認定	23
3-1 成績評価	
(1) 成績評価基準	
(2) 到達度の確認	
3-2 進級・修了認定の要件	
(1) 修了要件	
(2) 進級要件	
(3) GPA要件	
3-3 法学既修者の認定	
第 4 章 教育内容等の改善措置	28
4-1 教育内容等の改善措置	
(1) 概要	
(2) 授業評価アンケート	
(3) オープン授業・モデル授業	
(4) FDミーティング	
(5) ガイダンス、意見交換会、ご意見Box等	

第 5 章	入学者選抜	31
5-1	入学者選抜	
	(1) 概要	
	(2) 入試実施日程・会場	
	(3) 標準（3年制）コースの選抜方法	
	(4) 短縮（2年制）コースの選抜方法	
	(5) 適性試験の考慮方法	
	(6) 入学者の多様性を図るための方策	
5-2	入学者選抜の実績	
第 6 章	学生の支援体制	39
6-1	学習支援	
	(1) 教員によるクラス担任制度	
	(2) セミナー・ゼミ	
	(3) 修了生弁護士によるチューター制度	
	(4) 入学予定者のための導入セミナー	
6-2	生活支援等	
	(1) 授業料	
	(2) 奨学金	
	(3) 学生相談	
	(4) 健康相談	
	(5) セクシャルハラスメント対策	
	(6) 学生金庫・アルバイト紹介	
6-3	修了生の支援	
6-4	障がいがある学生に対する支援	
	(1) 修学のために必要な基本的な施設及び設備の整備充実	
	(2) 修学上の特別措置などの配慮	
6-4	職業支援（キャリア支援）	
第 7 章	教育研究組織	45
7-1	教員組織の概要	
7-2	専任教員の配置と構成	
別紙 1	[開講科目担当表]	49
別紙 2	[授業アンケートの結果]	71

第Ⅱ部	教員の個人活動	80
1.	福田 誠治	81
2.	葉玉 匡美	83
3.	原 強	85
4.	林 幹人	87
5.	平川 雄士	88
6.	石井 文晃	91
7.	岩崎 政孝	93
8.	岩瀬 徹	95
9.	北村 喜宣	97
10.	駒田 泰士	100
11.	小山 泰史	104
12.	熊澤 貴士	107
13.	楠 茂樹	108
14.	桑原 勇進	110
15.	松井 智予	113
16.	三好 幹夫	115
17.	森下 哲朗	117
18.	長沼 範良	121
19.	野田 耕志	123
20.	小幡 純子	125
21.	越智 敏裕	128
22.	奥富 晃	130
23.	塩野谷 高	132
24.	田頭 章一	134
25.	高見 勝利	138
26.	滝澤 正	141
27.	照沼 亮介	143
28.	富永 晃一	146
29.	和仁 亮裕	148
30.	矢島 基美	15

## 第 I 部

### 教育活動等に関する自己点検・評価の結果

## 第1章 教育の理念及び目標

### 1-1 教育の理念及び目標

本法科大学院は、本学の教育理念を法学の分野で体现するものである。本法科大学院は、次のような教育を目指している。

第1に、上智大学は、キリスト教的ヒューマニズムに基づく人間形成を建学の精神としている。

他者のために、他者と共に生きる人間への成長を目指し、かけがえのない人生を生きる人々の喜びや悲しみに深く共感しうる豊かな人間性を涵養する教育は、将来法曹となって社会に貢献しようと思っている者にとって重要なことである。法科大学院においては、実定法についての知識や実務的な法技術を身につけさせる教育が中心となるが、そういったなかにあっても、本学は様々なかたちで学生一人ひとりの人格と個性を尊重し、その与えられた天分を最大限伸ばすことのできる人間教育を行うこととしている。また、社会に生起する様々な問題に広い関心と興味を持ち、人間や社会のあり方に関する思索を深めることができるよう教育している。そういった理念のもと、本法科大学院は、中規模校の利点を生かして、学生相互の切磋琢磨を促すとともに、教員と学生との距離を近いものとしており、個々の学生が教員と親しく接することを通じて、密度の濃い教育を行っている。

第2に、上智大学は、単に知識を多く記憶させるというのではなく、新しい問題に対処しうる智慧を身につけさせる教育を理念としている。

現代社会においては、新たに生起する法的紛争や問題に対して、単に知識を当てはめ解決するのではなく、自ら考え対処することができる能力を養うことが必要とされている。本法科大学院では、双方向の対話形式の授業、少人数での演習科目、実践的な実務系科目など、多様な授業を組み合わせ、新たな問題について自ら考え対処することができる柔軟な法的思考能力を養う教育を実現している。また、実社会で生起する様々な問題に適切に対処する能力を養うためには、理論と実務を架橋した教育が不可欠であることから、研究者教員と実務家教員が共同で担当する授業を開設するほか、研究者教員と実務家教員が教育方法等について意見を交換する機会を設けている。

第3に、上智大学は、国際性を身につけさせる教育を重視している。

上智大学は、1980年にわが国ではじめて国際関係法学科を設置する等、伝統的に国際社会で活躍できる人材の育成に力を入れてきた。21世紀の社会は、世界中で多様な価値観を持った人々が豊かで安全な生活を送ることができ、国際的にも開かれた自由な共生社会でなければならない。本法科大学院における教育は、国際関係法科目や外国法科目を重視するとともに、外国語による教育を部分的に取り入れたり、渉外法律事務所、外国法事務弁護士事務所、外資系企業等におけるエクスターンシップの機会を設けたりする等、国際的な視野を持ち、国際化した社会に貢献できる法曹を育てることも狙いとしている。

第4に、上智大学は、近年、本学が取り組むテーマとして「環境」を重視してきた。

地球的規模で拡大する環境問題を解決するために、法的視点を有する人材は不可欠である。上智大学法学部では、1997年にわが国ではじめて地球環境法学科が設置され

ており、2005年には独立大学院として地球環境学研究科（地球環境大学院）が開設されている。本法科大学院においても、環境問題に強い法曹を育成するため環境法政策、環境訴訟や企業環境法など、環境法科目を充実させ、環境法に対して多角的にアプローチし、21世紀に必要とされる環境法を駆使できる法曹の養成を目指している。環境法関連科目の充実度では、本法科大学院が日本随一であると自負している。

## 1-2 学生の在籍及び進級・修了の状況

2013年度末から2015年度末までにおける、学生の在籍及び進級・修了の状況（コース別・入学年度別）は次の通りである。

### 〔標準コース〕

2009年度入学者標準コース（入学者50名、標準修業年限修了率68.0%）

	進級者	原級留	修了者	小計	年度内の退学	合計
2009年度末	45	5	—	50	0	50
2010年度末	36	11	—	47	3	50
2011年度末	7	4	34	45	2	47
2012年度末	1	2	7	10	1	11
2013年度末	-	0	2	2	1	3
2009年度入学者（2013年度末）			在学0、修了43	退学7	50	

2010年度入学者標準コース（入学者45名、標準修業年限修了率64.4%）

	進級者	原級留置	修了者	小計	年度内の退学	合計
2010年度末	36	5	—	41	4	45
2011年度末	34	6	—	40	1	41
2012年度末	3	2	29	34	6	40
2013年度末	-	1	3	4	1	5
2014年度末	-	1	0	1	0	1
2015年度末	-	-	-	-	1	1
2010年度入学者（2015年度末）			在学0、修了32	退学13	45	

2011年度入学者標準コース（入学者37名、標準修業年限修了率67.6%）

	進級者	原級留	修了者	小計	年度内の退学	合計
2011年度末	30	6	—	36	1	37
2012年度末	27	6	—	33	3	36
2013年度末	3	2	25	30	3	33
2014年度末	-	0	3	3	2	5
2011年度入学者（2014年度末）			在学0、修了28	退学9	37	



2012年度入学者標準コース（入学者36名、標準修業年限修了率63.9%）

	進級者	原級留	修了者	小計	年度内の退学	合計
2012年度末	29	4	—	33	3	36
2013年度末	23	8	—	31	2	33
2014年度末	2	3	23	28	3	31
2015年度末	1	1	2	4	1	5
2012年度入学者（2015年度末）			在学2、修了25	退学9	<b>36</b>	

2013年度入学者標準コース（入学者35名、標準修業年限修了率60.0%）

	進級者	原級留	修了者	小計	年度内の退	合計
2013年度末	27	8	—	35	0	35
2014年度末	30	4	—	34	1	35
2015年度末	5	7	21	33	1	34
2013年度入学者（2015年度末）			在学12、修了21	退学2	<b>35</b>	

2014年度入学者標準コース（入学者23名）

	進級者	原級留	修了者	小計	年度内の退学	合計
2014年度末	16	4	—	20	3	23
2015年度末	18	1	—	19	1	20
2014年度入学者（2015年度末）			在学19、修了—	退学4	<b>23</b>	

2015年度入学者標準コース（入学者23名）

	進級者	原級留	修了者	小計	年度内の退学	合計
2015年度末	11	12	—	23	0	23
2015年度入学者（2015年度末）			在学23、修了—	退学0	<b>23</b>	

〔短縮コース〕

2011年度入学者短縮コース（入学者56名、標準修業年限修了率91.1%）

	進級者	原級留	修了者	小計	年度内の退学	合計
2011年度末	54	1	—	55	1	56
2012年度末	1	2	51	54	1	55
2013年度末	—	0	3	3	0	3
2011年度入学者（2013年度末）			在学0、修了54	退学2	<b>56</b>	

2012年度入学者短縮コース（入学者44名、標準修業年限修了率84.1%）

	進級者	原級留	修了者	小計	年度内の退学	合計
2012年度末	38	6	—	44	0	44
2013年度末	6	1	37	44	0	44
2014年度末	—	1	6	7	0	0

2015年度末	0	0	1	1	0	0
2012年度入学者（2012年度末）			在学0、修了44		退学0	<b>44</b>

2013年度入学者短縮コース（入学者39名、標準修業年限修了率71.8%）

	進級者	原級留	修了者	小計	年度内の退学者	合計
2013年度末	33	6	—	39	0	39
2014年度末	4	5	28	37	2	39
2015年度末	0	2	7	9	0	9
2013年度入学者（2015年度末）			在学2、修了35		退学2	<b>39</b>

2014年度入学者短縮コース（入学者26名、標準修業年限修了率73.1%）

	進級者	原級留	修了者	小計	年度内の退学	合計
2014年度末	22	4	—	26	0	26
2015年度末	4	3	19	26	0	26
2014年度入学者（2015年度末）			在学7、修了26		退学0	<b>26</b>

2015年度入学者短縮コース（入学者14名）

	進級者	原級留	修了者	小計	年度内の退学	合計
2015年度末	14	0	—	14	0	14
2015年度入学者（2015年度末）			在学14、修了—		退学0	<b>14</b>

### 1-3 教育の成果

#### (1) 司法試験の結果

上智大学法科大学院修了生の司法試験の結果は、以下のとおりである（司法試験結果については、毎年度、法科大学院ホームページ上で公表している）。年によって変動はあるが、本法科大学院修了生の司法試験の合格者数は、概して、30～40名程度である。2015年度司法試験までの累計で、本法科大学院から363名の司法試験合格者を輩出しており、法曹養成機関としての一定の役割を果たしているといえるが、さらに多くの司法試験合格者を出すことができるよう教職員、修了生OB・OGが一体となって努力していきたいと考えている。

司法試験合格者の上智大学法科大学院在学中の学内成績(GPA)をみると、学内成績と司法試験の合格率との間には、きわめて明確な相関関係がみられる。在学生に情報を提供するため、司法試験合格者の在学時学内成績との相関関係表(匿名化処理したもの)を自習室内に掲示しており、法科大学院での授業・試験は、司法試験合格のために重要であるとの認識が、教員・学生間で広く共有されている。

各年度における司法試験合格者数、合格率（2015年10月現在）

	コース	受験者	合格者	合格率
平成 18 年度 (2006 年度)	短縮	51	17	33.33%
	標準	—	—	
	小計	51	17	33.33%
平成 19 年度 (2007 年度)	短縮	69	31	44.93%
	標準	25	9	36.00%
	小計	94	40	42.55%
平成 20 年度 (2008 年度)	短縮	79	39	49.37%
	標準	41	11	26.83%
	小計	120	50	41.67%
平成 21 年度 (2009 年度)	短縮	83	26	31.33%
	標準	61	14	22.95%
	小計	144	40	27.78%
平成 22 年度 (2010 年度)	短縮	88	26	29.55%
	標準	80	7	8.75%
	小計	168	33	19.64%
平成 23 年度 (2011 年度)	短縮	102	23	22.55%
	標準	91	16	17.58%
	小計	193	39	20.21%
平成 24 年度 (2012 年度)	短縮	109	25	22.94%
	標準	74	13	17.57%
	小計	183	38	20.77%
平成 25 年度 (2013 年度)	短縮	102	30	29.41%
	標準	72	16	22.22%
	小計	174	46	26.44%
平成 26 年度 (2014 年度)	短縮	89	16	17.98%
	標準	69	15	21.74%
	小計	158	31	19.62%
平成 27 年度 (2015 年度)	短縮	113	21	18.58%
	標準	79	8	10.13%
	小計	192	29	15.10%

各年度修了生の累積合格者数、合格率（2015年10月現在）

	コース	修了者数	累積合格者数	合格率
平成17年度修了 (2006年3月修了)	短縮	52	33	63.46%
	標準	—	—	—
	小計	52	33	63.46%
平成18年度修了 (2007年3月修了)	短縮	44	32	72.73%
	標準	34	14	41.18%
	小計	78	46	58.97%
平成19年度修了 (2008年3月修了)	短縮	55	37	67.27%
	標準	47	11	23.40%
	小計	102	48	47.06%
平成20年度修了 (2009年3月修了)	短縮	48	22	45.83%
	標準	45	15	33.33%
	小計	93	37	39.78%
平成21年度修了 (2010年3月修了)	短縮	58	35	60.34%
	標準	41	13	31.71%
	小計	99	48	48.48%
平成22年度修了 (2011年3月修了)	短縮	55	31	56.36%
	標準	47	16	34.04%
	小計	102	47	46.08%
平成23年度修了 (2011年9月修了) (2012年3月修了)	短縮	49	18	36.73%
	標準	42	15	35.71%
	小計	91	33	36.26%
平成24年度修了 (2012年9月修了) (2013年3月修了)	短縮	53	28	52.83%
	標準	41	14	34.15%
	小計	94	42	44.68%
平成25年度修了 (2013年9月修了) (2014年3月修了)	短縮	40	16	40.00%
	標準	31	8	25.81%
	小計	71	24	33.80%
平成26年度修了 (2015年3月修了)	短縮	34	2	5.88%
	標準	26	3	11.54%
	小計	60	5	8.33%

修了人数あたりの司法試験合格率（合計）

（2015年10月現在）

		修了生	合格者	合格率
平成26年度（2014年度） （2015年3月修了まで） 司法試験2015年度合格者まで	短縮	488	254	52.05%
	標準	354	109	30.79%
	小計	842	363	43.11%

（2）進路状況

学生の修了後の進路については、情報収集に努めているが、必ずしも全員について把握できているわけではない。司法試験を受験して法曹になる者のほか、民間企業、官公庁などへの就職など法曹以外の進路をとる修了生もみられている（法科大学院ホームページ上の「修了生進路状況」を参照）。

法科大学院の独自の取組みとして、L-Box(Sophia Law Box)というWebサイトを構築している。修了生全員にIDを付与して、就職情報や法科大学院からの各種情報を発信するサイトを作り、修了生とのつながりを深める施策を行っている。今後は、さらに修了生の就職支援、進路把握のために努力していきたい。

修了生の進路（2016年2月末現在）

修了年度	司法試験合格者								左記以外の者				修了者数計 (2015年3月現在)
	検察官	裁判官	法律事務所	企業	官公庁	司法修習	その他	小計	企業	官公庁	その他	小計	
2005	1	1	27	1	0	0	3	33	3	3	13	19	52
2006	1	1	38	4	0	0	2	46	5	2	25	32	78
2007	1	0	39	4	0	0	4	48	9	3	42	54	102
2008	1	2	29	2	3	0	0	37	7	5	44	56	93
2009	2	1	39	3	2	0	1	48	6	6	39	51	99
2010	2	1	30	5	1	3	5	47	6	3	46	55	102
2011	0	0	26	2	0	4	1	33	6	4	48	58	91
2012	0	2	27	5	0	6	2	42	3	1	48	52	94
2013	0	1	11	0	0	11	1	24	0	2	45	47	71
2014	0	0	0	0	0	5	0	5	0	0	55	55	60
計	8	9	266	26	6	29	19	363	45	29	405	479	842

\*その他には 自営業、博士課程進学、研究員、法律事務所事務員、行政書士、司法試験受験準備中、就職活動中、不明を含む

## 第2章 教育内容・教育方法

### 2-1 教育内容

#### (1) カリキュラムの概要

上智大学法科大学院では、法律基本科目、法律実務基礎科目、実務演習科目、展開・先端科目等をバランスよく配置している。2013～2015年度の開講科目、履修年次、担当教員については、別紙1[開講科目担当表]に記載するとおりである(なお、各年度の開講科目担当表は、それぞれの年度の履修要綱に掲載されている)。

また、学生の選択の幅を広げるために、早稲田大学法科大学院との相互科目履修による学生交流も行っており、毎年、10科目程度を法科大学院から提供されている科目を履修することができるようになっている。2016年度からは、相互科目履修の対象を、法政大学法科大学院、立教大学法科大学院にも拡大している。

カリキュラム編成に関しては、学生に対する学習効果をより高めるために、毎年、カリキュラムの検討を行い、必要に応じて、科目の組替え、科目の新設、履修年次の変更等を行っている。FD活動の一環として毎学期実施される学生による授業アンケートにおける意見や、毎学期末に行う意見交換会での学生の声も反映しつつ、また、FDミーティング等での教育効果を上げるためのカリキュラムのあり方を巡る議論をふまえて、教育研究委員会を中心に、より良いカリキュラムを編成するための検討を継続して行っている。

なお、2013年度から2015年度に実施したカリキュラムの改訂は以下の通りである(2013年度にはカリキュラムの改訂は行っていない)。

#### 各年度のカリキュラム改訂の状況

2014年度	・「エクスターンシップⅠ、Ⅱ」を、それぞれ「エクスターンシップⅠ、Ⅱ(法曹)」、「エクスターンシップⅠ、Ⅱ(企業等)」、「エクスターンシップⅠ、Ⅱ(公務)」の3つに分け、学生がより明確な目的意識をもってエクスターンシップ・プログラムに参加することができるよう、変更を行った。また、「エクスターンシップⅠ、Ⅱ(公務)」については、1年生も参加できるようにし、より広い範囲の学生のエクスターンシップ参加が可能となり、1年の夏から公務の実務を体験する機会を得ることが可能となった。
2015年度	・法学未修者に対する教育を更に充実を図るため、従来、法律実務基礎科目として開講していた「法学実務基礎」(春学期、2単位)に加え、「法学実務基礎Ⅱ」(1単位、秋学期、選択科目)を開講した(これに伴い、従来の「法学実務基礎」を「法学実務基礎Ⅰ」と改称し、両科目を法律基本科目として開講することとした)。これらの2科目は選択科目であるが、未修者に対してはなるべく

	<p>履修するように指導している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度の募集（平成 26 年度実施）の入試より、「行政法」を試験科目から除いたことに伴い、「行政法基礎」の履修年次を「1 年次」から「1 年次または 2 年次」に変更した。</li> <li>・基礎法学・隣接科目の充実を図るため、平成 27 年度より「西洋法制史」を新規開講した。</li> <li>・B 群実務科目の再編成を行い、平成 27 年度より「リーガルライティング」を削除した。</li> <li>・環境法に関する専門性の高い修了生を輩出するため、修了時において一定基準を満たした学生に対して、申請に基づき、環境法の関係科目を履修して環境法に関する専門性を高めたことを証する、「環境法プログラム履修証」の発行を制度化した。</li> <li>・環境法研究者養成を推進するため、全国で最も充実した環境法を専門とする教員を擁する強みを生かし、同じ研究科内の法律学専攻の科目を借り入れ科目として取り込んだ。</li> </ul>
--	---

なお、2016 年度には、①未修者教育の更なる充実、②法律基本科目に関する教育の強化、③狭義の法曹以外の進路を目指す学生に対応した教育、といった観点から、以下のような大幅なカリキュラムの改訂を行っている。

< 法律基本科目関係 >

①新規開設

1 年次

- 民法基礎Ⅱ（必修、3 単位）
- 民法基礎Ⅳ（必修、1 単位）
- 民事法実務基礎演習（必修、1 単位）
- 民法基礎演習（選択、1 単位）

2 年次

- 民事訴訟理論と実務（選択、2 単位）
- 刑法基本演習（選択、1 単位）
- 刑事訴訟法基本演習（選択、1 単位）

3 年次

- 企業取引法（選択、2 単位）
- 総合民法Ⅰ（選択、1 単位）
- 総合民法Ⅱ（選択、1 単位）
- 総合民法Ⅲ（選択、1 単位）
- 商法演習（選択 2 単位）

\* 民法基礎Ⅱ、Ⅳは、従来の民法基礎Ⅱを分割した。

<実務基礎科目>

①新規開設

ビジネス法基礎（選択、2単位）

②統合

ビジネス法務演習（選択、2単位）

\*金融法実務演習と企業法務演習を統合してビジネス法務演習と改組した。

③廃止

環境法実務演習（選択必修、2単位）

④履修度変更・単位数変更

公共法務演習（選択、1単位）

⑤区分変更

刑事実務（選択、2単位）”

\*刑事実務を法律実務基礎科目 B 群科目から、一般の法律実務基礎科目に区分変更した。

<展開・先端科目>

①新規開設

労働法演習（選択必修、1単位）

国際私法基礎（選択必修、1単位）

廃棄物・リサイクル法（選択必修、2単位）

環境法の現代的課題（選択必修、2単位）

まちづくり法と実務（選択必修、2単位）

②単位数変更

社会法基礎（選択必修、1単位）

\*2単位から1単位に変更した。

(2) 教育方法

カリキュラムの見直し以外にも、教育方法についても継続的な検討・見直しを行っており、2013年度から2015年度にかけて、以下のような改訂を実施した。

<2013年度>

・GPA要件が理由で原級留置となった場合、D評価も再履修の対象とし、各年次GPA算出の際は、1年目の同じ科目のD評価を除外し、再履修の際に新たに付与された評価に基づき算出することとした。

<2015年度>

・3年生のクラス編成において、2年次末までの成績を勘案し、新たにクラス分けを実施することによって、成績上位者の司法試験合格率の向上を図ると共に、成績中位以下の学生に対するきめ細かい指導を実現することとした。

・春学期は5月連休、秋学期は10月末～11月の創立記念日等の授業休講期間を利用し、2年次配当の法律基本科目において、一斉レポート課題を課し、早い段階で



文章力・表現力に関する個々人の課題を認識する機会を提供することとした。各科目、担当教員が添削し、平常点の一部として評価している。

## 2-2 授業規模

本法科大学院における各科目の受講者は、下記の通り適正な規模である。

### 2013年度受講者数 法律基本科目（秋学期）

開講区分名	登録コード	開講科目	主担当教員名	受講者数	備考
秋学期	LWS10200	行政法基礎	古城 誠	37	
秋学期	LWS10400	民法基礎Ⅱ	福田 誠治	38	
秋学期	LWS10400	民法基礎Ⅱ	福田 誠治	38	
秋学期	LWS10500	民法基礎Ⅲ	羽生 香織	37	
秋学期	LWS10600	商法基礎	野田 耕志	36	
秋学期	LWS10600	商法基礎	野田 耕志	36	
秋学期	LWS10700	民事訴訟法基礎	田頭 章一	38	
秋学期	LWS10700	民事訴訟法基礎	田頭 章一	38	
秋学期	LWS10900	刑事訴訟法基礎	岩瀬 徹	38	
秋学期	LWS20200	行政法	小幡 純子	34	Aクラス
秋学期	LWS20201	行政法	小幡 純子	33	Bクラス
秋学期	LWS20700	民事訴訟法Ⅱ	原 強	40	Aクラス
秋学期	LWS20701	民事訴訟法Ⅱ	原 強	41	Bクラス
秋学期	LWS20800	刑法	照沼 亮介	36	Aクラス
秋学期	LWS20801	刑法	照沼 亮介	34	Bクラス
秋学期	LWS21400	刑事訴訟法	長沼 範良	35	Aクラス
秋学期	LWS21400	刑事訴訟法	長沼 範良	35	Aクラス
秋学期	LWS21401	刑事訴訟法	長沼 範良	36	Bクラス
秋学期	LWS21401	刑事訴訟法	長沼 範良	36	Bクラス
秋学期	LWS21600	商法Ⅱ	松井 智予	38	Aクラス
秋学期	LWS21601	商法Ⅱ	松井 智予	39	Bクラス

### 2014年度受講者数 法律基本科目（春学期）

開講区分名	登録コード	開講科目	主担当教員名	受講者数	備考
春学期	LWS10100	憲法基礎	矢島 基美	30	
春学期	LWS10300	民法基礎Ⅰ	小山 泰史	28	
春学期	LWS10800	刑法基礎	林 幹人	28	
春学期	LWS20100	憲法	高見 勝利	26	Aクラス
春学期	LWS20101	憲法	高見 勝利	27	Bクラス

春学期	LWS20300	民法Ⅰ	福田 誠治	29	Aクラス
春学期	LWS20301	民法Ⅰ	福田 誠治	30	Bクラス
春学期	LWS20400	民法Ⅱ	奥富 晃	29	Aクラス
春学期	LWS20401	民法Ⅱ	奥富 晃	28	Bクラス
春学期	LWS20600	民事訴訟法Ⅰ	原 強	30	Aクラス
春学期	LWS20601	民事訴訟法Ⅰ	原 強	30	Bクラス
春学期	LWS21100	法曹倫理	岩崎 政孝	28	輪講、Aクラス
春学期	LWS21101	法曹倫理	岩崎 政孝	27	輪講、Bクラス
春学期	LWS21500	商法Ⅰ	松井 智予	29	Aクラス
春学期	LWS21501	商法Ⅰ	松井 智予	29	Bクラス
春学期	LWS30100	公法（総合）	筑紫 圭一	30	輪講、Aクラス
春学期	LWS30101	公法（総合）	筑紫 圭一	34	輪講、Bクラス
春学期	LWS30200	民事法（総合）	田頭 章一	31	輪講、Aクラス
春学期	LWS30201	民事法（総合）	田頭 章一	33	輪講、Bクラス
春学期	LWS30300	刑事法（総合）	照沼 亮介	27	輪講、Aクラス
春学期	LWS30301	刑事法（総合）	照沼 亮介	35	輪講、Bクラス

2014年度受講者数 法律基本科目（秋学期）

開講区分名	登録コード	開講科目	主担当教員名	受講者数	備考
秋学期	LWS10200	行政法基礎	古城 誠	30	
秋学期	LWS10400	民法基礎Ⅱ	伊藤 栄寿	28	
秋学期	LWS10500	民法基礎Ⅲ	羽生 香織	27	
秋学期	LWS10600	商法基礎	野田 耕志	25	
秋学期	LWS10700	民事訴訟法基礎	安西 明子	26	
秋学期	LWS10900	刑事訴訟法基礎	岩瀬 徹	28	
秋学期	LWS20200	行政法	小幡 純子	28	Aクラス
秋学期	LWS20201	行政法	小幡 純子	25	Bクラス
秋学期	LWS20700	民事訴訟法Ⅱ	原 強	30	Aクラス
秋学期	LWS20701	民事訴訟法Ⅱ	原 強	31	Bクラス
秋学期	LWS20800	刑法	林 幹人	31	Aクラス
秋学期	LWS20801	刑法	林 幹人	31	Bクラス
秋学期	LWS21400	刑事訴訟法	長沼 範良	31	Aクラス
秋学期	LWS21401	刑事訴訟法	長沼 範良	29	Bクラス
秋学期	LWS21600	商法Ⅱ	松井 智予	29	Aクラス
秋学期	LWS21601	商法Ⅱ	松井 智予	29	Bクラス

2015年度受講者数 法律基本科目（春学期）

開講期	登録コード	開講科目	主担当教員名	受講者数	備考
-----	-------	------	--------	------	----

春学期	LWS10100	憲法基礎	矢島 基美	24	
春学期	LWS10200	行政法基礎	古城 誠	39	
春学期	LWS10300	民法基礎Ⅰ	奥富 晃	24	
春学期	LWS10800	刑法基礎	伊藤 渉	24	
春学期	LWS20100	憲法	高見 勝利	18	Aクラス
春学期	LWS20101	憲法	高見 勝利	20	Bクラス
春学期	LWS20300	民法Ⅰ	福田 誠治	20	Aクラス
春学期	LWS20301	民法Ⅰ	福田 誠治	21	Bクラス
春学期	LWS20600	民事訴訟法Ⅰ	原 強	21	Aクラス
春学期	LWS20601	民事訴訟法Ⅰ	原 強	23	Bクラス
春学期	LWS20800	刑法	照沼 亮介	20	Aクラス
春学期	LWS20801	刑法	照沼 亮介	19	Bクラス
春学期	LWS21100	法曹倫理	岩崎 政孝	19	輪講、Aクラス
春学期	LWS21101	法曹倫理	岩崎 政孝	17	輪講、Bクラス
春学期	LWS21500	商法Ⅰ	松井 智予	21	Aクラス
春学期	LWS21501	商法Ⅰ	松井 智予	20	Bクラス
春学期	LWS30100	公法（総合）	筑紫 圭一	32	輪講、Aクラス
春学期	LWS30101	公法（総合）	筑紫 圭一	25	輪講、Bクラス
春学期	LWS30200	民事法（総合）	田頭 章一	33	輪講、Aクラス
春学期	LWS30201	民事法（総合）	田頭 章一	21	輪講、Bクラス
春学期	LWS30300	刑事法（総合）	照沼 亮介	32	輪講、Aクラス
春学期	LWS30301	刑事法（総合）	照沼 亮介	24	輪講、Bクラス

2015年度受講者数 法律基本科目（秋学期）

開講期	登録コード	開講科目	主担当教員名	受講者数	備考
秋学期	LWS10400	民法基礎Ⅱ	伊藤 栄寿	24	
秋学期	LWS10500	民法基礎Ⅲ	羽生 香織	26	
秋学期	LWS10600	商法基礎	野田 耕志	25	
秋学期	LWS10700	民事訴訟法基礎	田頭 章一	25	
秋学期	LWS10900	刑事訴訟法基礎	三好 幹夫	25	
秋学期	LWS20200	行政法	小幡 純子	19	Aクラス
秋学期	LWS20201	行政法	小幡 純子	21	Bクラス
秋学期	LWS20400	民法Ⅱ	小山 泰史	17	Aクラス
秋学期	LWS20401	民法Ⅱ	小山 泰史	22	Bクラス
秋学期	LWS20700	民事訴訟法Ⅱ	原 強	23	Aクラス
秋学期	LWS20701	民事訴訟法Ⅱ	原 強	24	Bクラス

秋学期	LWS21400	刑事訴訟法	長沼 範良	19	Aクラス
秋学期	LWS21401	刑事訴訟法	長沼 範良	19	Bクラス
秋学期	LWS21600	商法Ⅱ	尾崎 悠一	19	Aクラス
秋学期	LWS21601	商法Ⅱ	尾崎 悠一	22	Bクラス

2013年度＜早稲田大学大学院法務研究科開講授業科目の学生数＞

早稲田大学法科大学院提供科目	開講期	登録者数
消費者法	秋学期	1
経済刑法	春学期	0
環境法Ⅱ	春学期	0
資本市場法	春学期	0
社会保障法	春学期	0
少年法	秋学期	1
医事法Ⅰ	秋学期	0
ジェンダーと法 B	秋学期	1
外国人と法	春学期	0
著作権特殊講義	春学期	5

2013年度＜上智大学大学院法務研究科開講授業科目の学生数＞

上智大学法科大学院提供科目	開講期	登録者数
環境法政策	春学期	3
国際取引法の現代的課題	春学期	0
金融法	秋学期	0
比較法	秋学期	0
企業環境法	秋学期	0
環境訴訟	春学期	3
比較環境法	秋学期	0
環境刑法	春学期	0

2014年度＜早稲田大学大学院法務研究科開講授業科目の学生数＞

早稲田大学法科大学院提供科目	開講期	登録者数
消費者法	秋学期	2
少年法	秋学期	0
経済刑法	春学期	0
外国人と法	春学期	0
公務員法	春学期	0
資本市場法	秋学期	0
医事法Ⅰ	秋学期	0

ジェンダーと法 B	秋学期	1
社会保障法	春学期	0
環境法Ⅱ	春学期	0

2014年度＜上智大学大学院法務研究科開講授業科目の学生数＞

上智大学法科大学院提供科目	開講期	登録者数
環境法政策	春学期	0
国際取引法の現代的課題	春学期	0
金融法	秋学期	0
比較法	秋学期	0
環境訴訟	春学期	2
比較環境法	秋学期	0
国際環境法	春学期	0
法と経済学	秋学期	0

2015年度＜早稲田大学大学院法務研究科開講授業科目の学生数＞

早稲田大学法科大学院提供科目	開講期	登録者数
外国人と法	春学期	1
社会保障法	春学期	0
消費者法	秋学期	0
少年法	秋学期	1
資本市場法	秋学期	0
医事法Ⅰ	秋学期	0
ジェンダーと法 B	秋学期	1
公務員法	春学期	1
自治体紛争法	秋学期	0

2015年度＜上智大学大学院法務研究科開講授業科目の学生数＞

上智大学法科大学院提供科目	開講期	登録者数
国際取引法の現代的課題	春学期	0
金融法	秋学期	0
比較法	秋学期	1
環境訴訟	春学期	0
比較環境法	秋学期	0
国際環境法	春学期	0
法と経済学	秋学期	0
Law and Practice of International Business Transactions	秋学期	1

## 2-3 教室外における授業の実績

「リーガルクリニック」や「エクスターンシップ」、「自主研究・論文作成」の実績は次の通りである。

### リーガルクリニック相談実績

2013年		2014年		2015年	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
14件	5件	4件	5件	5件	2件

### エクスターンシップ派遣実績

2013年		2014年		2015年	
春休み	夏休み	春休み	夏休み	春休み	夏休み
7名	34名	2名	47名	4名	31名

### 自主研究・論文作成の履修実績

	登録者数	単位修得者数
2013	2	2
2014	2	2
2015	0	0

## 2-4 履修登録単位数の上限

各年次ごとの履修登録単位数の上限は、以下のとおりである（2015年度）

1年次	36単位	<p>【2015年度入学】「法学実務基礎Ⅰ」および「法学実務基礎Ⅱ」は、年間最高履修限度に含めない。ただし、修了要件単位数に算入できない。</p> <p>*【2015年度入学】「行政法基礎」を2年次に履修する場合、年間最高履修限度に含めない。</p> <p>*進級が認められた場合の再履修科目については、4単位を限度として、年間最高履修限度に含めない。</p>
2年次	36単位	<p>*「エクスターンシップⅠ」（1単位）「エクスターンシップⅡ」（1単位）は年間最高履修限度に含めない。</p> <p>*早稲田大学大学院法務研究科との単位互換による授業科目の単位数は年間最高履修限度に含まれる。</p> <p>*履修中止をした科目の単位数も年間最高履修限度に含まれる</p> <p>*いずれの年次においても、44単位を超えて履修登録することはできない。</p>

3 年次 (最終年次)	44 単位	
----------------	-------	--

## 2-5 教育内容・教育方法に関する自己点検・評価

本法科大学院では、教育内容・教育方法の両面で、中規模校のメリットを生かした教育を行っている。

カリキュラムでは、法律基本科目 7 科目、法律実務基礎科目の必修 3 科目(法曹倫理、訴訟実務基礎(民事)、訴訟実務基礎(刑事))のほか、司法試験選択科目 8 科目は勿論のこと、その他、数多くの展開・先端科目、実務科目を開講している。学生は充実した実務科目の履修によって、将来の法曹として活躍するうえでの基礎となる実務感覚、実務的視点を養うことが可能となり、かつ、多様な展開・先端科目の履修によって、現代社会に必要とされる広い視野を得ることができる。現代社会に様々な形で貢献できる法曹を要請するうえで、必要十分な科目が展開されていると考えている。

とりわけ、上智大学法科大学院の特徴でもある「環境」と「国際」については、大変充実した科目展開がなされている。環境法関連科目の科目数は日本随一といえる(法科大学院ホームページの「環境法政策プログラムのご案内」を参照)。また、「国際仲裁・ADR」は、春休み期間中に、長島・大野・常松法律事務所より約 20 名もの弁護士の協力を得てワークショップ形式で行うもので、他大学法科大学院(東京大学・一橋大学等)の学生も参加し、大変有意義で贅沢な演習科目となっている。さらに、本法科大学院では、エクスターンシップ・プログラムにも積極的に取り組んでおり、毎年、多くの学生が法律事務所、企業、公官庁等で貴重な経験を積んでいる。

本法科大学院のカリキュラムは、設立以来、法律基本科目、展開・先端科目、実務科目等がバランスよく配置されてきたと考えているが、学生の状況等を反映し、継続的かつ機動的により良いカリキュラムとするためのカリキュラムの見直しを行っており、今後御継続していきたい。

教育方法という点でも、法律基本科目の 1 クラスあたりの受講者数は、20 名から 40 名程度であり、学生とのやり取りを通じた密度の濃い教育を行ううえで適正な規模となっている。選択科目では、より一層、少人数でのきめ細かな指導が可能となっている。

なお、3 年次生の総合科目については、学生の理解状況に応じた教育を可能にするため、成績を基準としたクラス編成を 2015 年から導入した。学生のアンケート結果をみると、3 年次生の総合科目についても満足度は高い。今までのところ、成功していると言ってよいと思われるが、学生数の減少等も踏まえ、今後のあり方については継続的に検討を行っていく。

また、文章力・表現力向上を目指して 2015 年から 2 年次の法律基本科目に導入した一斉レポート制度は、学生からも大変好評であり、一定の効果をあげている。

## 第3章 成績評価及び修了認定

### 3-1 成績評価

#### (1) 成績評価基準

上智大学法科大学院では、成績評価基準を学生にあらかじめ公表して、原則としてそれに基づいて成績評価を行っている。現在の成績評価基準は、2013年に改訂したものであり、右下記表のとおりである。この評価基準の内容は、履修要項に記載され、全学生に周知されている。

成績評価は、おおむね平常点30%、期末試験70%の割合で付される。期末試験は、法科大学院独自の複写式答案用紙を用いて実施し(受験した学生が複写された自らの答案を保有)、試験終了後速やかに各教員が「出題の趣旨」を公表することとしている。

また、平常点評価に関しては、2015年に「法科大学院の法律基本科目における平常点評価に関する運用方針」を策定し、全ての担当教員に徹底している。

各学期に授業担当教員が付した成績状況については、全科目の成績分布一覧表を作成して、教育研究委員会において、総合的な検討を行っている。また、各学期終了後、当該成績分布一覧表を自習室内に掲示することによって、学生への周知も行っている。

なお、個々の学生が成績評価に疑義を抱いた場合は、「成績評価確認願」及び「成績確認再確認願」の制度を利用できる。このうち「成績評価再確認願」は、法科大学院独自の制度であり、「成績評価再確認願」が提出された場合には、法科大学院に設けられている成績評価委員会が判断することになっている。このように、本法科大学院は、成績評価の適正さを担保するため、慎重な異議申立て・救済制度を設けている。



## 法科大学院の成績評価等に関する申合せ

2013年度改正

(趣旨)

第1条 この申合せは、上智大学法科大学院履修規程第14条第1項及び第2項の規定に基づき、試験の成績評価について一定の基準を示すこと及び教員間の成績評価の平準化を促進することを目的とする。

(成績評価の割合)

第2条 履修学生数が20名以上の科目については、履修学生数に対する成績評価の割合は、おおむね次のとおりとする。

①Aは、20%以下とする。

②Bは、30%以下とする。ただし、Aと合計して50%を超えない限度で30%を超えることができる。

③A及びBは、合計して20%以上とする。

2 履修学生数が20名に満たない科目についても、前項の基準を考慮して成績評価を行うように努めなければならない。

(成績評価の観点)

第3条 成績評価は、前条の規定の趣旨に則り、絶対評価のみによることなく相対評価の観点を加味して、厳正にこれを実施しなければならない。

(適用範囲)

第4条 第2条の割合は、レポートの提出その他の方法による成績評価にも適用する。

2 科目の性質上、第2条の割合を適用することが妥当でない場合については、別に定める申合せ細則による。

(成績評価基準)

第5条 成績評価は、おおむね平常点30%、期末試験(期末試験に準ずるものとして教員が指定する中間試験を含む。)70%の割合でこれを行う。

2 平常点の評価は、授業への参加、課題への取組み、小テストの成績等による。

(試験時間)

第6条 期末試験の試験時間は、原則として120分間とする。

(申合せの公表)

第7条 この申合せは、法科大学院履修要綱への掲載その他の法科大学院教授会が適当と認める方法により、学生に周知しなければならない。

附則

この申合せは、2006年度前期から適用する。

2009年改正の申合せは、2009年度春学期から適用する。

2011年改正の申合せは、2011年度秋学期から適用する。

2013年改正の申合せは、2013年度春学期から適用する。

法科大学院の成績評価等に関する申合せ細則

1 年群・実務演習科目、年群・実務科目の成績評価割合については、法科大学院の成績評価等に関する申合せ第2条第1項(1)の年の割合を50%以下とし、(2)については適用しないこととする。

2 前項の規定にかかわらず、年群・実務科目の「エクスターンシップ(I, II)」については、合格(P)又は不合格(F)で評価する。



法律基本科目以外のすべてから	3 単位（選択）
計	93 単位

短縮コースの修了要件となる単位数（2014 年度以前入学）

法律基本科目	
公法系科目	6 単位（必修）
民事系科目	18 単位（必修）
刑事系科目	8 単位（必修）
法律実務基礎科目	6 単位（必修）及び 6 単位（選択必修）
基礎法学・隣接科目	4 単位（選択必修）
展開・先端科目	12 単位（選択必修）
法律基本科目以外のすべてから	5 単位（選択）
計	65 単位

短縮コースの修了要件となる単位数（2015 年度入学）

法律基本科目	
公法系科目	8 単位（必修）
民事系科目	18 単位（必修）
刑事系科目	8 単位（必修）
法律実務基礎科目	6 単位（必修）及び 6 単位（選択必修）
基礎法学・隣接科目	4 単位（選択必修）
展開・先端科目	12 単位（選択必修）
法律基本科目以外のすべてから	3 単位（選択）
計	65 単位

\* 2015 年度からは行政法を短縮コースの法律試験科目からはずしたため、行政法基礎 2 単位を必修科目に追加した。

\* 2016 年度からは、カリキュラム見直しに伴い、標準コースの修得単位数を 94 単位に変更している。

(2) 進級要件

進級要件として必要な単位数は、以下のとおりである。

1 年次は、必修科目 24 単位

2 年次は、必修科目 20 単位を含む 24 単位

### (3) GPA 要件

上記のような単位数の要件に加えて、進級・修了要件として、「各年次の GPA が 1.6 を下回らないこと」を定めている。

### 3-3 法学既修者の認定

本法科大学院の入学試験では、短縮コース入学希望者に対して、法律論文試験を課している。その内容は憲法を出題範囲とする公法、民法・民事訴訟法・商法を出題範囲とする民事法、刑法・刑事訴訟法を出題範囲とする刑事法であり、それぞれの出題範囲を法科大学院入試要綱において明示している。

法律論文試験の出題内容については、事例問題を基本としつつ、各科目についての基礎的な学識を有することが判定できるように工夫している。過去の試験問題はホームページ上で公表している。したがって、他大学からの受験者も、問題の傾向は予測可能であり、上智大学法学部生に有利となることはない。また、採点にあたっては、匿名性が完全に確保されている。

短縮コースの入学者には、入学試験の結果として、法学既修者としての資格を認定し、28 単位について、単位認定を行っており、その結果として、標準修業年限を 1 年短縮することとしている。学則上は、30 単位までの単位認定が可能であるが、単位認定の趣旨を考え、入学試験において法律論文試験を課した 6 科目（憲法・民法・民事訴訟法・商法・刑法・刑事訴訟法）について、全体で 28 単位の認定が適切であると判断したものである。

上記のような既修者の認定は、法科大学院・法学部の法律基本科目にかかわる教員が答案の採点を行い、合格者の判定を慎重に行っており、厳格な方法での既修者認定を行っている。本法科大学院においては、法科大学院以外の機関が実施する法律科目試験の結果のみによって、法学既修者としての認定を行うことは一切していない。

## 第4章 教育内容等の改善措置

### 4-1 教育内容等の改善措置

#### (1) 概要

上智大学法科大学院に設置されたFD委員会では、定期的な企画として、学生による授業評価アンケート、オープン授業(他の教員による授業見学)、FDミーティング(全体会)を毎学期に行っている。それ以外にも、専門分野に分かれたFD会議を随時開催しており、それらの成果は、毎学期末の在学生ガイダンスや意見交換会等を通して、学生にフィードバックしている。

#### (2) 授業評価アンケート

毎学期に、出席学生の全員を対象として授業評価アンケートを実施している。法科大学院の授業はほとんど全員が出席しているため、回答率は100%に近い。回答結果を学期後半の授業に反映させるため、アンケートの実施時期を各学期半ば(5月末から6月上旬、10月末から11月上旬)に設定している。

アンケートの実施にあたっては、学生の自由な意見を把握するために、授業担当の教員が記入後のアンケート用紙に一切関与できない仕組みとしている。すなわち、教員は無記名式のアンケート用紙を配布し、記入を学生に依頼するだけであり、記入後の用紙回収および事務室への提出は学生が行っている。また、アンケートにおける多肢選択式の項目は機械によってデータ処理し、自由記述欄は事務室職員がデータ入力している。このように回答内容の匿名性を確保したうえで、その仕組みを学生に事前周知することで、忌憚のない意見を記述できるようにしている。

アンケートのデータはFD委員会においてとりまとめ、FDミーティングでその分析結果を審議・検討している。そのうえで、各授業担当教員は、各自の授業のなかでアンケート結果につき講評することとしている。また全体的なアンケート結果については、毎学期末の在学生ガイダンスでそれを示しつつ(別紙2[授業アンケート結果]に、各年度の表データを掲載)、FD委員長が検討結果の概略を説明している。これらのフィードバックによって、学生から真摯な意見を得られるように図っている。

#### (3) オープン授業・モデル授業

毎学期に2週間のオープン授業期間を設けており、各教員はこの期間において、どの授業であっても自由に見学することができる。また、すべての授業を必ず1名以上の教員が参観するようにしている。参観する教員にとっては、授業担当教員が話すスピードや学生に対する課題の提示方法など、授業運営の方法に関して有益な知見や指摘を得られることが多く、授業の活性化につながっている。

参観者は報告書を提出することとしており、その報告書をFD委員会において取りまとめたうえで、FDミーティングにおける議題の1つにしている。

なお、2015年度秋学期においては、1つの授業科目を他の授業担当者全員で参観するという企画を試行した。これは、授業評価アンケートにおいて継続的に高い評価を受けてきた科目を参観することで、参観者がその教育方法を参考にするとともに、そういった評価の高い授業であってもなお生ずる課題を浮き彫りにすることを目的としたものである。同一科目を参観したあとのFDミーティングでは、学生の現状等について、例年よりも突っ込んだ議論が展開された。

#### (4) FDミーティング

毎学期の授業アンケート及びオープン授業の結果を受けて、毎学期の後半に、授業担当教員によるFDミーティングを実施している。FDミーティングでは、授業アンケートの結果やオープン授業の報告結果をもとにして、授業の充実・改善を図るための議論をしている。そこでは、過去のデータとの比較を通じて、年度による学生動向の変化などが報告され、各授業の運営方法にとどまらず、クラス編成のあり方やカリキュラム改訂など組織全体に関わる問題も議論されている。そういった組織に関わる問題は、教育研究委員会への問題提起として生かされている。

近年は、法科大学院をめぐる諸環境の変化に伴って、法科大学院の開設当初と比べれば、学生の基礎学力等が大きく異なっており、FDミーティングの重要性が格段に高まっている。そこで、FDミーティングへの参加を制度的に担保するため、法科大学院の専任教員および学内の兼任教員の出席義務を再確認するとともに、2015年度から、やむを得ない事由による欠席については欠席理由の事前届を求めたうえで、その理由を法科大学院長が審査している。また、FDミーティングは学外の非常勤講師にも開かれているが、現実には多くの出席を期待できないことに鑑みて、FDミーティングでの配布資料や意見交換の概要を各非常勤講師に送付している。これにより、すべての授業担当教員が問題意識を確実に共有できるようにしている。

そのほか、各専門分野に分かれたFD会議では授業科目間の連携強化等を検討している。

FDミーティングの結果を受けて、教育研究委員会に問題提起され、制度変更に至ったというケースは稀ではなく、FD活動は有効に機能しているといえることができる。

#### 〔FDミーティング議事概要〕

2013年度 第2回 FDミーティング

日時：2013年12月11日（水）12：30～13：30

場所：2号館13階大会議室

2013年度秋学期中間アンケートの集計結果及びオープン授業の結果の説明・議論

2014年度 第1回 FDミーティング

日時：2014年6月25日（水）12：30～13：25

場所：2号館13階大会議室

2014年度春学期中間アンケートの集計結果及びオープン授業の分析・意見交換

#### 2014年度 第2回 F D ミーティング

日時：2014年12月17日（水） 12:30～13:20

場所：2号館13階大会議室

2014年度秋学期中間アンケート（および2014年度春学期期末アンケート）の集計結果ならびにオープン授業の結果の分析・意見交換

#### 2015年度 第1回 F D ミーティング

日時：2015年6月24日（水） 12:30～13:30

場所：2号館13階大会議室

2015年度春学期中間アンケート（2014年度秋学期期末アンケート）の集計結果ならびにオープン授業の結果の分析・意見交換

#### 2015年度 第2回 F D ミーティング

日時：2015年12月16日（水） 12:30～13:30

場所：2号館13階大会議室

2015年度秋学期中間アンケート（および2015年度春学期期末アンケート）の集計結果ならびにオープン授業の結果の説明・議論

#### (5) ガイダンス、意見交換会、ご意見Box等

毎学期末、定期試験期間の最終日に在学生ガイダンスと意見交換会を実施している。在学生ガイダンスでは、教務委員会が履修ガイダンスを行うほか、F D 委員会が授業アンケート結果を学生に報告している。また、意見交換会は、教員と学生が懇談する場であって、原則としてすべての授業担当教員が参加するため、学生が教員に対して様々な質問、意見を述べることができる機会となっている。意見交換会の場で、学生より授業・施設等の改善の要請がなされる場合もあり、広く意見を聴取する有用な場となっている。

そのほか、「ご意見Box」を設置しており、学生は法科大学院長に対して直接に、匿名で意見を提出できる。これにより意見をふまえて、施設の改善等を行った例もある。

このように、法科大学院では、風通し良く、学生からの要望を聴くことができるような体制を整えており、教育の充実・改善のために有効に機能していると考えている。

## 第5章 入学者選抜等

### 5-1 入学者選抜等

#### (1) 定員

本法科大学院では、2014年度入試まで90名の定員としており、その内訳を標準（3年制）コース40名、短縮（2年制）コース50名としていたが、2015年度入試から入学定員を60名とし、その内訳を標準（3年制）コース30名、短縮（2年制）コース30名とした。

2016年度入試においては内訳を、標準（3年制）コース35名、短縮（2年制）コース25名とした。これは本学が未修者教育に定評があることを受けての対応であった。

#### (2) 入試実施日程、会場

2014年度入試においては8月、1月の2回の入試を実施したが、2015年度以降はA日程（8月から9月）、B日程（9月）、C日程（1月）の3回実施している。また、2015年度入試までは東京会場のみで入試を実施していたが、2016年度入試においては東京会場のほか、大阪会場（C日程は除く）においても実施した。これらの方策により、法科大学院進学希望者への幅広い受験機会を提供するよう努めている。

#### (3) 標準（3年制）コースの選抜方法

第1次試験においては、「法科大学院全国統一適性試験」の成績、「一般論文試験」として同適性試験の第4部の解答及び本法科大学院が実施する一般論文試験の成績、及び大学での学業成績に基づき客観的な方法で選抜を実施している。なお、2016年度からは、適性試験第4部の利用を行っている。具体的には、適性試験第4部の提出は必須とし、本学が独自に実施する一般論文試験の受験は任意とした。本学独自の一般論文試験を受験していない受験者は適性試験第4部の結果を「一般論文試験」の成績とし、併せて本学が実施する一般論文試験を受験した場合には、両者のうち高得点を獲得した方を「一般論文試験」の得点としている。本学実施の一般論文試験については、適性試験第4部の採点基準を参考に適正に採点基準を作成し、採点の際にはこれら基準の遵守の厳格化に努めている。

第2次試験においては、口頭試問を中心にした面接により受験者の論理的思考力を適確に評価するとともに人間性についても十分に考慮している。また、任意提出書類に基づき外国語能力や多種多様な経験等を審査し、さらに、適性試験の成績（具体的な点数）にも十分に配慮してこれを適切に利用しつつ総合的判断のうえで合格者を選抜している。

#### (4) 短縮（2年制）コースの選抜方法



第1次試験においては、「法科大学院全国統一適性試験」の成績及び大学での学業成績の客観的な評価に加えて、本法科大学院が実施する「法律論文試験」（憲法、民事法、刑事法）の成績により、法律学の専門知識を前提とする基礎学力を備えているかを客観的に評価し選抜を行っている。

第2次試験においては、標準コースと同様の方法で選抜を行っている。

#### (5) 適性試験の考慮方法

上記のように、入学者選抜にあたっては、適性試験の成績を考慮要素の一つとしている。

標準コースの第1次試験においては、適性試験と一般論文を1:1の割合で考慮し、短縮コースの第1次試験では適性試験と法律論文を1:4の割合で考慮している。

合格者の適性試験最低点は下記のとおりであり、適性試験の成績の著しく低い者は合格していない。合格者の適性試験平均点は下記のとおりである。

#### 平成26年度(2014年度)合格者

受験区分	適性試験最低点		適性試験平均点	
	8月	1月	8月	1月
標準(3年制)コース	142	144	177	165
短縮(2年制)コース	133	142	181	182

#### 平成27年度(2015年度)合格者

受験区分	適性試験最低点			適性試験平均点		
	A日程	B日程	C日程	A日程	B日程	C日程
標準(3年制)コース	153	154	154	185	191	180
短縮(2年制)コース	170	170	178	208	196	207

#### 平成28年度(2016年度)合格者

受験区分	適性試験最低点			適性試験平均点		
	A日程	B日程	C日程	A日程	B日程	C日程
標準(3年制)コース	142	146	163	193	189	177
短縮(2年制)コース	142	150	163	196	194	181

#### (6) 入学者の多様性を図るための方策

入学定員60名中、他学部及び社会人の入学者が3割を下回らないように配慮している。また、特に外国語能力に優れた法曹を養成することも重要であるとの趣旨から、外国語特別枠を設けている。この特別枠は、標準(3年制)コースでは35名中3割程度、短縮(2年制)コースでは25名中1割程度を限度としている。

なお、2016年度入試からいわゆる「飛び入学」制度を導入している。

## 5-2 入学者選抜の実績

2013年度から2015年度にかけて実施した平成26年度入学者選抜試験、平成27年度入学者選抜試験、平成28年度入学者選抜試験の実績は以下の通りである。

### 平成26年度入試結果

志願者・受験者・合格者・補欠者・内訳数

受験区分	定員	性別	志願者		第一次試験受験者		第一次試験合格者	第二次試験受験者	合格者		(内併願者)		入学者	
			8月	1月	8月	1月			8月	1月	8月	1月	8月	1月
標準(3年制)コース	40	男	30	13	28	11	28	16	10	4	3	1	6	4
		女	35	6	35	6	35	26	21	6	4	3	8	5
		計	84		80		63	42	41		11		23	
短縮(2年制)コース	50	男	60	38	56	21	53	38	28	11	4	2	8	9
		女	34	6	33	5	33	19	15	2	2	0	8	1
		計	138		115		86	57	56		8		26	
合計	90	男	90	51	84	32	81	54	38	15	7	3	14	13
		女	69	12	68	11	68	45	36	8	6	3	16	6
総計			222		195		149	99	97		19		49	

### 出身大学別入学者数

出身大学	法曹養成専攻(3年制)	法曹養成専攻(2年制)	総計
早稲田大学	2	4	6
明治大学	1	4	5
中央大学	3	1	4
成蹊大学	1	3	4
上智大学	2	1	3
青山学院大学	2	1	3
明治学院大学	2	1	3
専修大学	2	0	2
首都大学東京	1	1	2
東京大学	0	2	2
神奈川大学	1	0	1
北九州市立大学	1	0	1
慶應義塾大学	1	0	1
同志社大学	1	0	1
東北芸術工科大学	1	0	1
獨協大学	1	0	1
立命館大学	1	0	1
東北大学	0	1	1
関西大学	0	1	1
聖心女子大学	0	1	1
西南学院大学	0	1	1
東海大学	0	1	1
日本大学	0	1	1
法政大学	0	1	1
立教大学	0	1	1
総計	23	26	49

## 合格者 内訳数

受験区分	定員	合格者数	(内 他学部+社会人)	(内 外国語特別枠)
標準(3年制)コース	40名	41	(32)	(1)
短縮(2年制)コース	50名	56		(2)

## 試験科目別平均点(8月)

受験区分	適性試験	一般論文試験 (100点満点)	民事法 (160点満点)	公法 (120点満点)	刑事法 (120点満点)
全受験者	181	64	96	71	75
合格者(3年制)	177	64	-	-	-
合格者(2年制)	181	-	99	73	74

## 試験科目別平均点(1月)

受験区分	適性試験	一般論文試験 (100点満点)	民事法 (160点満点)	公法 (120点満点)	刑事法 (120点満点)
全受験者	171	-	94	65	65
合格者(3年制)	165	-	-	-	-
合格者(2年制)	182	-	108	69	73

## 入学者内訳

コース	性別	入学者	(内社会人)	(内他学部)	(内社会人又は他学部)	平均年齢
入学者(3年制)	男	10	1	3	4	
	女	13	4	6	8	
	合計	23	5	9	12	
入学者(2年制)	男	17	6	1	6	
	女	9	5	3	5	
	合計	26	11	4	11	
合計	男	27	7	4	10	
	女	22	9	9	13	
総計		49	16	13	23	27.45

## 平成 27 年度入試結果

志願者・受験者・合格者・補欠者・入学者

受験区分	定員	性別	志願者			第一次試験 受験者			第一次試験 合格者		第二次試験 受験者		合格者			(内 併願者)			入学者		
			A日程	B日程	C日程	A日程	B日程	C日程	A日程	B日程	A日程	B日程	A日程	B日程	C日程	A日程	B日程	C日程	A日程	B日程	C日程
標準(3年制) コース	30	男	38	35	10	37	21	9	37	20	25	17	20	14	7	4	6	2	13	2	6
		女	28	23	3	27	10	3	27	10	15	8	8	4	2	2	2	0	2	0	0
		計	137			107			94		65		55			16			23		
短縮(2年制) コース	30	男	38	55	15	38	34	10	34	29	14	22	9	13	7	1	0	1	1	4	6
		女	36	29	2	36	14	2	36	11	16	9	13	7	2	6	3	0	2	1	0
		計	175			134			110		61		51			11			14		
合 計	60	男	76	90	25	75	55	19	71	49	39	39	29	27	14	5	6	3	14	6	12
		女	64	52	5	63	24	5	63	21	31	17	21	11	4	8	5	0	4	1	0
総 計			312			241			204		150		106			27			37		

出身大学別入学者数

出身大学	法曹養成専攻 (3年制)	法曹養成専攻 (2年制)	総計
上智大学	4	1	5
中央大学	3	1	4
國學院大学大	3	0	3
日本大学	3	0	3
放送大学	2	0	2
駒澤大学	1	1	2
立教大学	1	1	2
東京大学	0	2	2
慶応義塾大学	0	2	2
早稲田大学	0	2	2
東京農業大学	1	0	1
青山学院大学	1	0	1
駿河台大学	1	0	1
成城大学	1	0	1
法政大学	1	0	1
明治学院大学	1	0	1
一橋大学	0	1	1
信州大学	0	1	1
専修大学	0	1	1
立命館大学	0	1	1
総計	23	14	37

合格者 内訳数

受験区分	定員	合格者数	(内 他学部+ 社会人)	(内 外国語特別枠)
標準(3年制)コース	30名	55	(38)	(2)
短縮(2年制)コース	30名	51		(3)

試験科目別平均点(A日程)

受験区分	適性試験	一般論文試験 (100点満点)	民事法 (160点満点)	公法 (80点満点)	刑事法 (120点満点)
全受験者	200	63	100	46	70
合格者(3年制)	185	61	-	-	-
合格者(2年制)	208	-	105	47	75

試験科目別平均点(B日程)

受験区分	適性試験	一般論文試験 (100点満点)	民事法 (160点満点)	公法 (80点満点)	刑事法 (120点満点)
全受験者	195	60	82	46	72
合格者(3年制)	191	61	-	-	-
合格者(2年制)	196	-	96	47	82

試験科目別平均点(C日程)

受験区分	適性試験	民事法 (160点満点)	公法 (80点満点)	刑事法 (120点満点)
全受験者	186	95	45	73
合格者(3年制)	180	-	-	-
合格者(2年制)	207	102	49	79

入学者内訳

コース	性別	入学者	(内社会人)	(内他学部)	(内社会人又は他学部)	平均年齢
入学者(3年制)	男	21	7	8	13	
	女	2	0	0	0	
	合計	23	7	8	13	
入学者(2年制)	男	11	2	3	4	
	女	3	1	0	1	
	合計	14	3	3	5	
合計	男	32	9	11	17	
	女	5	1	0	1	
総計		37	10	11	18	29.00

## 平成 28 年度入試結果

志願者・受験者・合格者・補欠者・入学者

受験区分	定員	性別	志願者			第一次試験 受験者			第一次試験 合格者		第二次試験 受験者		合格者			(内 併願者)			入学者		
			A日程	B日程	C日程	A日程	B日程	C日程	A日程	B日程	A日程	B日程	A日程	B日程	C日程	A日程	B日程	C日程	A日程	B日程	C日程
標準(3年制)コース	35	男	32	34	5	32	34	3	31	34	12	13	8	9	3	0	2	0	2	3	3
		女	16	19	1	16	19	1	16	19	5	7	4	4	1	0	0	0	1	1	1
		計	107			105			100		37		29			2			11		
短縮(2年制)コース	25	男	25	37	11	23	25	7	22	25	16	23	15	20	7	4	4	0	5	4	5
		女	20	20	0	19	13	0	19	13	8	9	7	9	0	1	3	0	4	2	0
		計	113			87			79		56		58			12			20		
合計	60	男	57	71	16	55	59	10	53	59	28	36	23	29	10	4	6	0	7	7	8
		女	36	39	1	35	32	1	35	32	13	16	11	13	1	1	3	0	5	3	1
総計			220			192			179		93		87			14			31		

出身大学別入学者数

出身大学	法曹養成専攻 (3年制)	法曹養成専攻 (2年制)	総計
上智大学	1	5	6
早稲田大学	1	3	4
青山学院大学	1	1	2
中央大学	1	1	2
東海大学	0	2	2
東京大学	0	2	2
関西学院大学	1	0	1
関東学院大学	1	0	1
成蹊大学	0	1	1
専修大学	0	1	1
東京外国語大学	1	0	1
東洋大学	1	0	1
日本大学	0	1	1
法政大学	0	1	1
立教	0	1	1
龍谷大学	1	0	1
その他(外国大学等)	2	1	3
総計	11	20	31

合格者 内訳数

受験区分	定員	合格者数	(内 他学部+ 社会人)	(内 外国語特別 枠)
標準(3年制)コース	30名	29	(27)	(4)
短縮(2年制)コース	30名	58		(2)

試験科目別平均点(A日程)

受験区分	適性試験	一般論文試験 (100点満点)	民事法 (160点満点)	憲法 (80点満点)	刑事法 (120点満点)
全受験者	195	59	92	44	72
合格者(3年制)	193	58	-	-	-
合格者(2年制)	196	-	90	44	73

試験科目別平均点(B日程)

受験区分	適性試験	一般論文試験 (100点満点)	民事法 (160点満点)	憲法 (80点満点)	刑事法 (120点満点)
全受験者	195	60	94	42	80
合格者(3年制)	189	58	-	-	-
合格者(2年制)	194	-	94	42	80

試験科目別平均点(C日程)

受験区分	適性試験	民事法 (160点満点)	憲法 (80点満点)	刑事法 (120点満点)
全受験者	180	87	46	78
合格者(3年制)	177	-	-	-
合格者(2年制)	181	87	46	78

入学者内訳

コース	性別	入学者	(内社会人)	(内他学部)	(内社会人又は 他学部)	平均年 齢
入学者(3年制)	男	8	2	1	2	/
	女	3	1	1	1	
	合計	11	3	2	3	
入学者(2年制)	男	14	3	1	3	/
	女	6	2	0	2	
	合計	20	5	1	5	
合計	男	22	5	2	5	/
	女	9	3	1	3	
総計		31	8	3	8	29.00

## 第6章 学生の支援体制

### 6-1 学修支援

#### (1) 教員によるクラス担任制度

上智大学法科大学院では、従来から、教員と学生との距離が近く、同じ2号館内に、法科大学院の自習室・教室(2F)と教員の研究室(12F～14F)があることもあって、学習上の質問等についても気軽に教員に尋ねることができる状況にある。

きめ細かい学習指導を行うために、2年次生及び3年次生について教員による担任制を導入している。3年次生については、学生10名程度につき教員1名が担任となるクラス担任制、2年次生については、学生15名程度につき教員1名が担任となるクラス担任制が設けられた。担任教員は、担当する学生の状況にも応じて、グループ面談や個別面談等を実施し、学習や生活の相談にのることとしている。1年次生については、教員担任制をとっていないが、1年次春学期における法学実務基礎の担任教員が学習面での相談に幅広く応じている。

なお、2016年度からは、担任制度をより強化し、OB・OG弁護士である担任補佐と、担任教員がタッグを組んで、定期的に学生の学修進捗状況を確認し、必要な助言を行うような体制を整えている。

#### (2) 修了生弁護士によるチューター制度

OB・OGの弁護士の協力を得て、学生の学修を支援するチューター制度を整備している。チューター制度は、①学生の自主ゼミをサポートするためにチューターを派遣するタイプ、②チューターがテーマを設定してゼミを実施するタイプ、③特定の授業と連携して、学期中の授業の進度に合わせて学生の理解をサポートするタイプ、の3つの制度を基本としている。最近では、①②を中心に、学生により活発に利用されている。

なお、各学期にチューターと教員との間での意見交換会を実施しており、チューター制度の実施状況や利用学生の状況等についての情報を共有し、今後のチューターによる学習支援をより効果的なものとするよう審議・検討を行っている。

学生からは、気軽に相談できるチューターに期待する声が多く聞かれ、今のところ、有効に機能しているといえる。

#### (3) セミナー、ゼミ

上記のほか、司法試験合格者によるゼミ(例年、9月から11月頃に開催)、外部の弁護士による文章セミナー等も随時実施しており、活発に利用されている。

#### (4) 入学予定者のための導入セミナー



本法科大学院では、入学者がスムーズに法科大学院での学修をスタートできるような支援も実施している。

まず、入学予定者を対象として導入セミナーを実施している(毎年2月～3月)。これは、4月の入学時からスムーズに授業に入るためのものである。遠方に居住する入学予定者もいるため、参加は任意としているが、現実には多くの入学予定者が参加しており、アンケートの結果でも概ね好評である。

〔2013年度導入セミナー〕

2013年2月23日(土) 12:30～17:15

法学入門、憲法、行政法、民法(各科目教員)

2013年3月9日(土) 12:30～17:15

商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法(各科目教員)

2013年3月16日(土) 12:30～15:45

修了生弁護士による導入セミナー

〔2014年度導入セミナー〕

2014年2月22日(土) 12:30～17:15

法学入門、憲法、民法、刑法(各科目教員)

2014年3月8日(土) 12:30～17:15

行政法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法(各科目教員)

2014年3月15日(土) 12:30～15:45

修了生弁護士による導入セミナー

〔2015年度導入セミナー〕

2015年2月21日(土) 12:30～17:15

法学入門、憲法、民法、刑法(各科目教員)

2015年3月7日(土) 12:30～17:15

行政法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法(各科目教員)

2015年3月14日(土) 12:30～15:45

修了生弁護士による導入セミナー

また、入学時には、数日間を費やして入学者向けのガイダンスを実施している。そこでは、学事センター、学生センター、図書館、法科大学院事務室等の事務部門からの伝達・連絡と、法科大学院の教員による履修や学生生活に関するガイダンスとが併せ行われている。このガイダンスの一環として、**Welcome Party**も開催され、学生と教員とがコミュニケーションを持つ最初の機会となっている。これらの行事については新入学生全員に参加を義務づけている。

なお、ガイダンス期間中には、「法情報調査」を内容とする講義を実施し、法令、判例、雑誌論文等の検索の仕方、並びに判例の意義及び読み方の学習等、法律学を学ぶ上で必要な法情報の調査・分析に関する技法を修得させている。ただし、単位としては認定しない。

## 6-2 生活支援等

### (1) 授業料

本法科大学院は、経済上の理由で有為な人材が法曹への道を閉ざされることのないよう学費を比較的低廉に設定し、多くの有為な人材に門戸を開いている。

#### 2016年度 法学研究科法曹養成専攻納付金

(単位：円)

	2016年度入学者		2015年度入学者		2014年度入学者		2013年度 以前入学者	適用
	標準(3年 制)コース	短縮(2年 制)コース	標準(3年 制)コース	短縮(2年 制)コース	標準(3年 制)コース	短縮(2年 制)コース	標準(3年 制)コース	
入学金	270,000	270,000	—	—	—	—	—	入学の際のみ
在籍料	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	年額
授業料	889,000	889,000	889,000	889,000	889,000	889,000	889,000	年額(注1)
教育充実費	220,000	220,000	220,000	220,000	220,000	220,000	220,000	年額
小計	1,439,000	1,439,000	1,169,000	1,169,000	1,169,000	1,169,000	1,169,000	
同窓会積立金	20,000	20,000	—	—	—	—	—	入学の際のみ
学生教育研究災害傷害保険料	7,020	4,680	—	—	—	2,440	2,440	入学の際のみ(注2)
小計	27,020	24,680	—	—	—	2,440	2,440	
合計	1,466,020	1,463,680	1,169,000	1,169,000	1,169,000	1,171,440	1,171,440	

(注1) 翌年次以降の授業料については、毎年、物価上昇率を踏まえて改定する。

(注2) 学生教育研究災害傷害保険料(法科大学院学生教育研究賠償責任保険を含む)については、当初納入した金額に対応する保険期間を過ぎて在学する場合、1年毎に徴収する。

保険料1年間2,440円

### (2) 奨学金

経済上の理由により修学が困難な学生を援助するため、本法科大学院では、日本学生支援機構の奨学金とは別に、様々な奨学金制度を設けている。

入学前に給付が決定する奨学金として、上智大学篤志家(フランシスコ・スアレス)奨学金と上智大学大学院新入生奨学金を用意している。また、入学後に出願し、給付が決定する奨学金として、上智大学修学奨励奨学金と上智大学研究補助奨学金を用意している。具体的な内容と実績は、以下のとおりである。

#### ① 上智大学篤志家(フランシスコ・スアレス)奨学金

本学法曹養成専攻を第一志望とし受験し、合格した者の中できわめて優秀な者に対して、入学年度のみ授業料相当額を給付するものである。なお、2010年度より、入学年度のみ授業料半額相当額、授業料3分の1相当額のいずれかを給付することとしている。研究科の推薦による採用のため、学生による出願は不要となっている。採用人数は、2013年度10名、2014年度10名、2015年度7名である。

## ② 上智大学大学院新入生奨学金

本学大学院を第一志望として受験し、合格した者の中で、経済的理由により入学が極めて困難で、大学の成績がきわめて優秀な者に対して、学資金の一部、具体的には授業料相当額、授業料半額相当額、授業料3分の1相当額のいずれかを給付している。採用人数は2013年度2名、2014年度1名、2015年度3名である。

## ③ 上智大学修学奨励奨学金

学業成績が良好であるにもかかわらず、経済的な理由により学業継続が困難であると認められる者に、学資金の一部、具体的には授業料相当額、授業料半額相当額、授業料3分の1相当額のいずれかを給付している。採用人数は、2013年度22名、2014年度16名、2015年度12名である。

## ④ 上智大学研究補助奨学金

本学大学院に在籍している正規生に、研究の充実と人材の育成に資するため研究費の一部として支給するものである。採用人数は、2013年度121名である（2013年度まで。現在この奨学金は廃止）。

## (3) 学生相談

上智大学では、カウンセリングセンターを設けており、学生生活上の問題を専門のカウンセラーと話し合い、具体的な対処・解決方法を見出している。学業、人間関係、性格、将来の進路や職業、迷惑行為、心身の健康等、学生生活全般にわたる個人的な相談のほか、グループでの相談にも応じ、自己理解を深めるためのワークショップも行っている。

また、法科大学院独自のものとしては、学生生活委員会を設置し、学生が学業や人間関係を中心とした様々な問題や悩みを相談できる体制を整えており、随時、学生からの相談を受け付けている。

## (4) 健康相談

保健センターにおいて、年1回の定期健康診断はもちろんのこと、内科医師による内科相談（月、水、金）及び、精神科医師による精神保健相談（火、水、金）のほか、予約制ではあるが、摂食障害・循環器・婦人科等の専門医による専門保健相談、栄養食事指導なども行っている。また、保健センターでは、健康相談や応急処置、病院の紹介等も行っている。

## (5) セクシャルハラスメント対策

上智大学では、公正で安全な学生生活環境を保障すべく、セクシャルハラスメント防止委員会を設け、セクシャルハラスメント防止に努めている。

## (6) 学生金庫・アルバイト紹介

学生が、緊急にお金を必要とするときに、最高10,000円を限度に無利子にて1ヶ月貸し付ける制度を用意している。

また、アルバイトの紹介についても、学生センターによる一般の紹介（家庭教師、上智大学を会場とした求人、官公庁からの求人）のほか、法科大学院独自の法務関係にかかわるアルバイトの紹介も行っている。

### 6-3 修了生の支援

法科大学院修了後、新司法試験受験までの間、修了生が落ち着いて勉強できるスペースとして、上智大学市谷キャンパス内に、研修室を用意している(有料)。市谷キャンパスは、四谷キャンパスから徒歩10分の距離にあり(市谷駅から徒歩5分)、閑静な環境の中にある。研修室には、個人ロッカーや関連書籍等が備え付けられているほか、市谷キャンパス内には、グループ学習などに利用できる教室もある。修了生に対して、このように手厚い学習スペースを用意して、修了後の学習環境を整えている。

### 6-4 障がいがある学生に対する支援

#### (1) 修学のために必要な基本的な施設及び設備の整備充実

上智大学では、学内の全てのエレベーターには点字案内板と音声サービスが、メインストリートには誘導用点字ブロックが設置されている。車椅子の学生のためのスロープは8つの施設の入口に付設され、車椅子対応可能エレベーター、車椅子専用トイレも整備されている。

中でも、法科大学院生が主に利用している2号館は、上記の車椅子用スロープ、車椅子及び視覚障がい者対応エレベーターが設置されているほか、車椅子専用トイレが各階で利用できるようになっている。また、もっとも多く授業で使用される2つの教室には、特に車椅子用の座席を設けている。この2号館は東京都「福祉のまちづくり条例」に基づく整備基準の適合証を受けており、バリアフリーを実現した施設である。

#### (2) 修学上の特別措置などの配慮

障がいのある学生については、入学前に本人等と相談し、障がいの程度に応じて、円滑に法科大学院での生活が行えるよう最大限の配慮をするようにしている。過去に聴力障がいの学生が入学した際には、学部生ボランティアによる授業中のノートテイカー制度を整備したり、在校生によるノートの貸与制度等を導入して、支障なく学習に取り組める態勢を整えた。当該学生は、極めて優秀な成績で修了し、司法試験に合格している。

2013年度に筋ジストロフィーによる障がいがある学生が在籍していたが、登校に親族による支援が必要であるとして、自家用車での登校や親族の入校を許可してい

るほか、定期試験について試験時間の延長やPCでの受験を認める等の対応を行なっている。

#### 6-5 職業支援（キャリア支援）

従来、修了生の多くは、司法試験を経て法曹資格を得て、法律事務所に就職することを希望しており、就職委員会では、司法試験の直後に法律事務所への就職活動のためのセミナーを毎年開催してきた。しかし、進路における近年の傾向として特筆すべき点は、司法試験を経て法曹資格を取得するかどうかに関わらず、修了生が企業や官公庁に就職するなど、修了生の進路の多様化が進んでおり、就職委員会、及び、キャリアセンターではそのような傾向に応じた就職サポート体制を整えている。

本法科大学院では、法科大学院専任教員で構成される就職委員会が、在校生及び修了生に向けて就職関連情報を随時提供し、また、セミナー等を開催している。

具体的には、毎年、司法試験終了直後に、法律事務所等への就職活動を経験した先輩達の体験談を聞く就職セミナーを実施するほか、随時、企業等への就職に関するセミナー等も実施している。

また、全学向けの就職サポートを行う上智大学キャリアセンターとも連携し、進路・就職相談等、キャリアセンターが提供する各種サービスを法科大学院の在学生、及び、修了生が利用できる体制を整えている。

また、法科大学院又はキャリアセンターに届く法科大学院生（修了生）向けの法律事務所や企業等の求人情報について、随時、学内掲示板（L-Box等）にて案内している。

さらに、企業等へ就職することを希望する在学生及び修了生について、随時、人材コンサルタント会社に相談できる体制を整えている。

## 第7章 教員研究組織

### 7-1 教員組織の概要

2013年度～2015年度において本法科大学院に配置されている専任教員は後掲表のとおりであり、2015年度は、専任教員24名及びみなし専任教員1名の合計25名である。このうち21名が専属専任教員、7名は実務家教員である。これらの教員は、いずれも、担当する授業科目に関し高度の教育能力を有しており、本法科大学院の規模に照らして必要十分な質量の教員が配置されているといえる。

本法科大学院の専任教員は、研究者教員・実務家教員ともに、年齢バランスも良く、それぞれ担当する専門分野において日本をリードし、あるいは将来を嘱望される優れた研究業績あるいは実務能力を有する。

研究者教員は、いずれも、専攻分野について教育上及び研究上の業績を有する者であり、各教員の個人活動の部で記載されているとおり、高水準の研究業績を示している。また、実務家教員は、いずれも、その専門とする実務分野で、豊かな識見と高度の見識・技能を有することで高い評価を得ている日本有数の実務家であり、各種の研修・教育を担当した実績からも、高度の実務的技能を教授する能力を有している。

専任教員の教育・研究活動については、本報告書の教員の個人活動の部で詳述されているが、兼任教員、兼任教員も含めて、教員の基礎的データは、上智大学法科大学院のホームページ上で公開されており、また、教育・研究活動、社会活動等の詳細については、「上智大学教員教育研究情報データベース」で、随時公表されている。

教員の基礎的データ

<http://lawschool.cc.sophia.ac.jp/kyouin/index.html>

上智大学教員教育研究情報データベース

<http://librsh01.lib.sophia.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>

### 7-2 教員の配置と構成

2015年度の専任教員25名のうち、23名が教授又は実務家教授である。その比率は90%であり、このことは、教育・研究・実務の各方面において豊富な経験を有する教員がほとんどの領域にわたり配置されていることを意味し、本法科大学院の教育体制が優れたものであることを示している。

法律基本科目の指導を担当する者としては、いずれの年度も、下記表のとおり、憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法の7科目すべてについて専任教員が配置されている。各教員は、本報告書の教員の個人活動の部で詳述されているとおり、各分野において高水準の研究業績を積み、かつ教育経験を重ねており、本法科大学院では、すべての法律基本科目について適切に指導できる専任教員をバランスよく配置しているといえる。

基礎法学・隣接科目や展開・先端科目についても、法科大学院専任教員や法学部との兼任教員を中心として、各科目で高水準の業績をあげている教員を配置している。とりわけ、国際問題や環境保全に秀でた21世紀を担う法曹を養成するという観点から、

国際関係法と環境法の両分野に関する教育・研究の豊富な実績を有する専任教員を複数配置している。

専任教員の年齢構成は、2015年度の法科大学院所属専任教員では、30歳代1名、40歳代12名、50歳代7名、60歳代5名となっており、概ね適正なバランスが保たれている。実務家教員は7名（うち1名はみなし専任である派遣検察官）が配置され、専属専任教員に占める割合は、約30%である。いずれも5年以上の実務経験を有する法曹であって、高度の実務能力を有している。各教員の実務経験については、本報告書の教員の個人活動の部で詳述されているとおりであり、いずれも、担当する授業科目との関連が認められる。

法律基本科目である憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法については、2015年度において、すべて法科大学院専任教員及び法学部所属専任教員（兼任教員）が担当している。

本法科大学院の専任教員は、良好な教育研究環境を維持するという観点から、原則として、年間の授業負担数を14単位（研究者養成のための大学院法学研究科科目を含み16単位）とすることとされている。なお、科目の特性等の事情により、これをやや上回る専任教員もいるが、おおむね年間20単位以下の範囲にある。

専任教員の教育・研究水準の向上を図るため、本法科大学院の専任教員は、「教員特別研修制度に関する規程」の定めるところにより、6年以上継続して勤務したときは、1年間の特別研修期間を与えられる資格を有することとされている。また、「上智大学教員在外研究規程」の定めにより、原則として1年以内の在外研究期間を取得することが可能である。2013年度以降、法科大学院所属教員の実績は6名である。

本法科大学院の専任教員の教育上及び研究上の職務を補助するため、法科大学院・法学部共通の特別研究員（PD）が1～2名配置されている。また、法科大学院図書室には、上智大学図書館所属の司書職員1名が配置され、必要なレファレンス業務に従事している。

各年度の専任教員の状況は以下の通りである。

#### 2013年度専任教員一覧

		氏名	職名	所属	専門
1	専	高見勝利	教授	法科大学院	憲法
2	専	滝澤 正	教授	法科大学院	比較法
3	専	林 幹人	教授	法科大学院	刑法
4	専	奥富 晃	教授	法科大学院	民法
5	専	長沼範良	教授	法科大学院	刑訴法
6	専	原 強	教授	法科大学院	民訴法
7	専	小幡純子	教授	法科大学院	行政法
8	専	北村喜宣	教授	法科大学院	環境公法
9	専	田頭章一	教授	法科大学院	民訴法
10	専	福田誠治	教授	法科大学院	民法
11	専	森下哲朗	教授	法科大学院	国際取引法

12	専	野田耕志	教授	法科大学院	商法
13	専	松井智予	准教授	法科大学院	商法
14	実専	岩瀬 徹	実務家教授	法科大学院	実務科目
15	実専	和仁亮裕	実務家教授	法科大学院	実務科目
16	実専	岩崎政孝	実務家教授	法科大学院	実務科目
17	実専	葉玉匡美	実務家教授	法科大学院	実務科目
18	実専	石井文晃	実務家教授	法科大学院	実務科目
19	実専	平川雄士	実務家教授	法科大学院	実務科目
20	実み	熊澤貴士	実務家教授	法科大学院	実務科目 (派遣検察官)
21	専他	矢島基美	教授	法律学科	憲法
22	専他	楠 茂樹	准教授	法律学科	経済法

2014年度専任教員一覧

		氏名	職名	所属	専門
1	専	高見勝利	教授	法科大学院	憲法
2	専	滝澤 正	教授	法科大学院	比較法
3	専	林 幹人	教授	法科大学院	刑法
4	専	奥富 晃	教授	法科大学院	民法
5	専	長沼範良	教授	法科大学院	刑訴法
6	専	原 強	教授	法科大学院	民訴法
7	専	小幡純子	教授	法科大学院	行政法
8	専	北村喜宣	教授	法科大学院	環境公法
9	専	田頭章一	教授	法科大学院	民訴法
10	専	福田誠治	教授	法科大学院	民法
11	専	森下哲朗	教授	法科大学院	国際取引法
12	専	野田耕志	教授	法科大学院	商法
13	専	松井智予	准教授	法科大学院	商法
14	実専	岩瀬 徹	実務家教授	法科大学院	実務科目
15	実専	和仁亮裕	実務家教授	法科大学院	実務科目
16	実専	岩崎政孝	実務家教授	法科大学院	実務科目
17	実専	葉玉匡美	実務家教授	法科大学院	実務科目
18	実専	石井文晃	実務家教授	法科大学院	実務科目
19	実専	平川雄士	実務家教授	法科大学院	実務科目
20	実み	塩野谷高	実務家教授	法科大学院	実務科目 (派遣検察官)
21	専他	矢島基美	教授	法律学科	憲法
22	専他	小山泰史	教授	法律学科	民法
23	専他	駒田泰士	教授	国際関係法学科	知財法
24	専他	楠 茂樹	准教授	法律学科	経済法



\*上智大学法科大学院の運営・発展に顕著な功績のあった個人・団体の顕彰に関する上智大学法科大学院顕彰規程を2010年1月31日に制定している。2015年3月に退職した岩瀬徹教授に対して「特別功労顕彰」を授与した。

2015年度専任教員一覧

		氏名	職名	所属	専門
1	専	高見勝利	教授	法科大学院	憲法
2	専	滝澤 正	教授	法科大学院	比較法
3	専	奥富 晃	教授	法科大学院	民法
4	専	長沼範良	教授	法科大学院	刑訴法
5	専	原 強	教授	法科大学院	民訴法
6	専	小幡純子	教授	法科大学院	行政法
7	専	北村喜宣	教授	法科大学院	環境公法
8	専	田頭章一	教授	法科大学院	民訴法
9	専	福田誠治	教授	法科大学院	民法
10	専	小山泰史	教授	法科大学院	民法
11	専	森下哲朗	教授	法科大学院	国際取引法
12	専	楠 茂樹	教授	法科大学院	経済法
13	専	野田耕志	教授	法科大学院	商法
14	専	松井智予	准教授	法科大学院	商法
15	実専	三好幹夫	実務家教授	法科大学院	実務科目
16	実専	和仁亮裕	実務家教授	法科大学院	実務科目
17	実専	岩崎政孝	実務家教授	法科大学院	実務科目
18	実専	葉玉匡美	実務家教授	法科大学院	実務科目
19	実専	石井文晃	実務家教授	法科大学院	実務科目
20	実専	平川雄士	実務家教授	法科大学院	実務科目
21	実み	塩野谷高	実務家教授	法科大学院	実務科目 (派遣検察官)
22	専他	桑原勇進	教授	地球環境法学科	環境法
23	専他	越智敏裕	教授	地球環境法学科	環境法
24	専他	照沼亮介	教授	法律学科	刑法
25	専他	富永晃一	准教授	法律学科	労働法

## 別紙1 [開講科目担当表]

# 2013 年度開講科目担当表

※短縮（2年制）コース新入生の年次は、2年次とする。

※担当者欄の\*印は兼任講師（非常勤講師）、（他）は兼任講師を示す。

※前半は学期の前半、後半は学期の後半に授業を行うことを示す。

登録番号	授 業 科 目 名	単 位			開 講 期	担 当 者		履修 年次	備 考
		必 修	選 必	選 択		氏 名			
法 律 基 本 科 目									
LWS10100	憲法基礎	4			春	矢 島 基 美	1	週 2 回	
LWS10200	行政法基礎	2			秋	古 城 誠	1		
LWS10300	民法基礎 I	4			春	小 山 泰 史	1	週 2 回	
LWS10400	民法基礎 II	4			秋	福 田 誠 治	1	週 2 回	
LWS10500	民法基礎 III	2			秋	羽 生 香 織	1		
LWS10600	商法基礎	4			秋	野 田 耕 志	1	週 2 回	
LWS10700	民事訴訟法基礎	4			秋	田 頭 章 一	1	週 2 回	
LWS10800	刑法基礎	4			春	伊 藤 渉	1	週 2 回	
LWS10900	刑事訴訟法基礎	2			秋	岩 瀬 徹	1		
LWS20100	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS20101	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	B クラス	
LWS20200	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS20201	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	B クラス	
LWS20300	民法 I	4			春	福 田 誠 治	2	A クラス	} 同内容 週 2 回 注 1
LWS20301	民法 I	4			春	福 田 誠 治	2	B クラス	
LWS20400	民法 II	4			春	奥 富 晃	2	A クラス	} 同内容 週 2 回 注 1
LWS20401	民法 II	4			春	奥 富 晃	2	B クラス	
LWS21500	商法 I	2			春	松 井 智 予	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS21501	商法 I	2			春	松 井 智 予	2	B クラス	
LWS21600	商法 II	2			秋	松 井 智 予	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS21601	商法 II	2			秋	松 井 智 予	2	B クラス	
LWS20600	民事訴訟法 I	2			春	原 強	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS20601	民事訴訟法 I	2			春	原 強	2	B クラス	
LWS20700	民事訴訟法 II	2			秋	原 強	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS20701	民事訴訟法 II	2			秋	原 強	2	B クラス	
LWS20800	刑法	2			秋	照 沼 亮 介	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS20801	刑法	2			秋	照 沼 亮 介	2	B クラス	

登録番号	授 業 科 目 名	単 位			開 講 期	担 当 者			履修 年次	備 考
		必 修	選 必	選 択		氏 名				
LWS21400	刑事訴訟法	4			秋	長 沼 範 良			2	Aクラス } 同内容 Bクラス } 週2回 注1
LWS21401	刑事訴訟法	4			秋	長 沼 範 良			2	
LWS30100	公法（総合）	2			春	筑 紫 圭 一 小 島 慎 司			3	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1
LWS30101	公法（総合）	2			春	筑 紫 圭 一 小 島 慎 司			3	
LWS30200	民事法（総合）	2			春	田 頭 章 一 石 井 文 晃 福 野 田 誠 耕 治 志			3	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1
LWS30201	民事法（総合）	2			春	田 頭 章 一 石 井 文 晃 福 野 田 誠 耕 治 志			3	
LWS30300	刑事法（総合）	2			春	岩 瀬 徹 照 沼 亮 介			3	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1
LWS30301	刑事法（総合）	2			春	岩 瀬 徹 照 沼 亮 祐			3	
法律実務基礎科目										
LWS21100	法曹倫理	2			春	岩 瀬 徹 岩 崎 政 孝 熊 澤 貴 士			2	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1
LWS21101	法曹倫理	2			春	岩 瀬 徹 岩 崎 政 孝 熊 澤 貴 士			2	
LWS30400	訴訟実務基礎（民事）	2			秋	*宮 崎 謙			2	Aクラス } 同内容 注1 Bクラス }
LWS30401	訴訟実務基礎（民事）	2			秋	*宮 崎 謙			2	
LWS30500	訴訟実務基礎（刑事）	2			春	岩 瀬 徹 岩 崎 政 孝 熊 澤 貴 士			3	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1
LWS30501	訴訟実務基礎（刑事）	2			春	岩 瀬 徹 岩 崎 政 孝 熊 澤 貴 士			3	
LWS61400	法学実務基礎			2	春	コーディネータ 森 下 哲 郎 石 井 文 晃 *日 吉 由 美 *南 谷 英 子 *海 老 英 幸 *横 沼 英 次 手 英 次 聡			1	輪講 隔週
LWS61100	民法と実務			2	秋	葉 玉 匡 美			2・3	
LWS60201	会社法と実務			2	春	葉 玉 匡 美			3	
LWS60300	応用訴訟実務			2	秋	葉 玉 匡 美			3	
LWS60401	要件事実と法曹実務			2	秋	石 井 文 晃 *柳 澤 宏 輝 *森 大 樹			3	輪講

登録番号	授 業 科 目 名	単 位			開 講 期	担 当 者		履修 年次	備 考
		必 修	選 必	選 択		氏 名			
LWS61200	行政法と実務			1	秋	越 智 敏 裕	2・3	隔年開講 秋学期前半 注3	
(A 群・実務演習科目)									
LWS50100	公共法務演習		2		秋	高 見 勝 利 小 幡 純 子 *羽 根 一 成	2	輪講 注3	
LWS50200	企業法務演習		2		秋	石 井 文 晃 松 井 智 予	2	共同担当 注3	
LWS50300	環境法実務演習		2		秋	北 村 喜 宣 越 智 敏 裕	2	共同担当 注3	
LWS50400	金融法実務演習		2		春	和 仁 亮 裕 森 下 哲 朗 *前 田 博	2	共同担当 注3	
LWS55000	生活法実務演習		2		秋	伊 藤 栄 寿 *田 中 千 草	2	共同担当 注3	
(B 群・実務科目)									
LWS50600	模擬裁判（民事）		2		春	安 西 明 子 岩 崎 政 孝 *宮 崎 謙	3	共同担当 隔週 注3	
LWS50700	模擬裁判（刑事）		2		秋	岩 瀬 徹 岩 崎 政 孝 熊 澤 貴 士	3	共同担当 注3	
LWS50800	ネゴシエーション・ロイヤリング		2		春	石 井 文 晃 森 下 哲 朗	3	共同担当 春学期集中講義 注3	
LWS50900	法文書作成		2		秋	葉 玉 匡 美 岩 崎 政 孝	3	輪講 注3	
LWS51000	リーガルライティング		2		秋	和 仁 亮 裕 平 川 雄 士	3	輪講 注3	
LWS51100	刑事実務		2		秋	岩 瀬 徹 熊 澤 貴 士	3	輪講 注3	
LWS51200	リーガルクリニック		2		春	コーディネータ 岩 瀬 徹 コーディネータ 原 強 *田 中 千 草 *松 田 道 佐 *鈴 木 潤 子 *多 田 津 雪 *楠 本 維 大	3	共同担当 隔週 春学期・秋学期同内容	
LWS51201	リーガルクリニック		2		秋	コーディネータ 岩 瀬 徹 コーディネータ 原 強 *大 榎 健 一 *南 谷 英 幸 *高 橋 弘 子 *森 岡 耕 子 *谷 川 行 太 雄	3	共同担当 隔週 注3 春学期・秋学期同内容 各クラス定員 15名 注2 注3	

登録番号	授 業 科 目 名	単 位			開 講 期	担 当 者		履修 年次	備 考		
		必 修	選 必	選 択		氏 名					
LWS5131S	エクスターンシップ I		1		春	和 小 石 野 平 * * 石 權	仁 幡 井 田 川 井 田	亮 純 文 耕 雄 光	裕 子 晃 志 士 禎 洋	2・3	春学期集中講義 注3
LWS5131A	エクスターンシップ I		1		秋	和 小 石 野 平 * * 石 權	仁 幡 井 田 川 井 田	亮 純 文 耕 雄 光	裕 子 晃 志 士 禎 洋	2・3	秋学期集中講義 注3
LWS5132S	エクスターンシップ II		1		春	和 小 石 野 平 * * 石 權	仁 幡 井 田 川 井 田	亮 純 文 耕 雄 光	裕 子 晃 志 士 禎 洋	2・3	春学期集中講義 注3
LWS5132A	エクスターンシップ II		1		秋	和 小 石 野 平 * * 石 權	仁 幡 井 田 川 井 田	亮 純 文 耕 雄 光	裕 子 晃 志 士 禎 洋	2・3	秋学期集中講義 注3
LWS51400	国際仲裁・ADR		2		春	石 森 * * 森	井 下 口	文 哲 大	晃 朗 樹 聡	2・3	春学期集中講義 注3
基礎法学・隣接科目											
LWS51500	比較法		2		秋	滝 澤 正				1~3	
LWS51700	法哲学		2		秋	奥 田 純一郎				1~3	
LWS51800	法社会学		2		秋	*太 田 勝 造				1~3	
LWS51900	法と経済学		2		秋	日 引 聡				1~3	
展開・先端科目											
(社会経済法系)											
LWS54900	社会法基礎		2		秋	永 野 仁 美				1~3	
LWS52000	労働法 I		2		春	富 永 晃 一				2・3	
LWS52100	労働法 II		2		秋	富 永 晃 一				2・3	
LWS52200	租税法 I		2		春	平 川 雄 士				2・3	
LWS52300	租税法 II		2		秋	平 川 雄 士				2・3	
LWS52400	経済法 I		2		秋	楠 茂 樹				2・3	
LWS52500	経済法 II		2		秋	楠 茂 樹				2・3	

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者	履修年次	備考
		必修	選必	選択		氏名		
LWS52600	知的財産権法Ⅰ		2		春	駒田泰士	2・3	
LWS52700	知的財産権法Ⅱ		2		秋	駒田泰士	2・3	
LWS52800	倒産処理法		4		春	田頭章一	2・3	週2回
LWS52900	民事執行・保全法		2		秋	*松村和徳	2・3	
LWS53000	スポーツ・エンタテインメント法		1		春	コーディネータ *道垣内正人 森下哲朗 *松井真一 *松田俊治 *藤原総一郎 *服部薫 *穴戸一樹	2・3	輪講 春学期前半 注3
LWS53100	医療と法		1		秋	町野朔 奥田純一郎	2・3	共同担当 秋学期後半 注3
LWS54800	金融法		2		秋	和仁亮裕 森下哲朗 野田耕志 *井上聡 *藤田元康	2・3	輪講
(国際関係法系)								
LWS53200	国際法基礎		2		春	兼原敦子	1~3	
LWS53300	国際取引法		2		秋	森下哲朗	2・3	
LWS53400	国際私法		2		春	出口耕自	2・3	
LWS53500	国際家族法		1		秋	出口耕自	2・3	秋学期後半
LWS53600	国際人権法		1		秋	江藤淳一	2・3	秋学期前半 注3
LWS53700	国際経済法		2		秋	川瀬剛志	3	
LWS53800	国際取引法の現代的課題		2		春	和仁亮裕	2・3	
LWS53900	国際民事紛争処理		1		春	*道垣内正人	2・3	春学期後半
(環境法系)								
LWS54000	環境法基礎		2		春	筑紫圭一	1~3	
LWS54100	環境法政策		2		春	北村喜宣	2・3	
LWS54200	環境訴訟		2		春	越智敏裕	3	
LWS54300	企業環境法		2		秋	*吉川栄一	2・3	
MGGE7470	国際環境法Ⅱ		2		秋	(他)磯崎博司	2・3	地球環境学専攻開講科目 注4
LWS54500	環境刑法		1		春	町野朔	2・3	春学期後半
LWS54600	比較環境法		2		秋	*及川敬貴	2・3	
その他								
LWS60500	法と実務入門			1	春	葉玉匡美	1	春学期前半 注3

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者	履修年次	備考
		必修	選必	選択		氏名		
LWS60600	Law and Practice of International Business Transactions			1	秋	コーディネータ 森下哲朗 *WIDEN, Andrew *GILMORE, David Andrew	1~3	輪講 秋学期前半
LWS61500	特殊講義（警察活動と法実務）			1	春	*金山泰介	2・3	春学期前半隔週 注3
研究・論文								
LWS60701	自主研究・論文作成			2	秋	高見勝利	3	
LWS60702	自主研究・論文作成			2	秋	滝澤正	3	
LWS60711	自主研究・論文作成			2	秋	奥富晃	3	
LWS60704	自主研究・論文作成			2	秋	長沼範良	3	
LWS60706	自主研究・論文作成			2	秋	小幡純子	3	
LWS60705	自主研究・論文作成			2	秋	原強	3	
LWS60700	自主研究・論文作成			2	秋	福田誠治	3	
LWS60710	自主研究・論文作成			2	秋	松井智予	3	

注1. クラス指定あり。A、Bクラスの指定は、必ず守ること。

注2. 同一内容であるため、春・秋学期いずれか1科目を履修すること。

注3. この科目は履修中止できない。

注4. この科目は法科大学院の授業日程と異なる場合があるので、事前に法科大学院事務室に確認すること。



# 2014 年度開講科目担当表

※短縮（2年制）コース新入生の年次は、2年次とする。

※担当者欄の\*印は兼任講師（非常勤講師）、（他）は兼任講師を示す。

※前半は学期の前半、後半は学期の後半に授業を行うことを示す。

登録番号	授 業 科 目 名	単 位			開 講 期	担 当 者		履修 年次	備 考
		必 修	選 必	選 択		氏 名			
法 律 基 本 科 目									
LWS10100	憲法基礎	4			春	矢 島 基 美	1	週 2 回	
LWS10200	行政法基礎	2			秋	古 城 誠	1		
LWS10300	民法基礎 I	4			春	小 山 泰 史	1	週 2 回	
LWS10400	民法基礎 II	4			秋	伊 藤 栄 寿	1	週 2 回	
LWS10500	民法基礎 III	2			秋	羽 生 香 織	1		
LWS10600	商法基礎	4			秋	野 田 耕 志	1	週 2 回	
LWS10700	民事訴訟法基礎	4			秋	安 西 明 子	1	週 2 回	
LWS10800	刑法基礎	4			春	林 幹 人	1	週 2 回	
LWS10900	刑事訴訟法基礎	2			秋	岩 瀬 徹	1		
LWS20100	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS20101	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	B クラス	
LWS20200	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS20201	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	B クラス	
LWS20300	民法 I	4			春	福 田 誠 治	2	A クラス	} 同内容 週 2 回 注 1
LWS20301	民法 I	4			春	福 田 誠 治	2	B クラス	
LWS20400	民法 II	4			春	奥 富 晃	2	A クラス	} 同内容 週 2 回 注 1
LWS20401	民法 II	4			春	奥 富 晃	2	B クラス	
LWS21500	商法 I	2			春	松 井 智 予	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS21501	商法 I	2			春	松 井 智 予	2	B クラス	
LWS21600	商法 II	2			秋	松 井 智 予	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS21601	商法 II	2			秋	松 井 智 予	2	B クラス	
LWS20600	民事訴訟法 I	2			春	原 強	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS20601	民事訴訟法 I	2			春	原 強	2	B クラス	
LWS20700	民事訴訟法 II	2			秋	原 強	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS20701	民事訴訟法 II	2			秋	原 強	2	B クラス	
LWS20800	刑法	2			秋	林 幹 人	2	A クラス	} 同内容 注 1
LWS20801	刑法	2			秋	林 幹 人	2	B クラス	

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者		履修年次	備考
		必修	選必	選択		氏名			
LWS21400	刑事訴訟法	4			秋	長 沼 範 良	2	Aクラス } 同内容 Bクラス } 週2回 注1	
LWS21401	刑事訴訟法	4			秋	長 沼 範 良	2		
LWS30100	公法（総合）	2			春	筑小 紫島 圭一 司	3	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1	
LWS30101	公法（総合）	2			春	筑小 紫島 圭一 司	3		
LWS30200	民事法（総合）	2			春	田頭章一 石井文晃 辻伸耕 野田耕志	3	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1	
LWS30201	民事法（総合）	2			春	田頭章一 石井文晃 辻伸耕 野田耕志	3		
LWS30300	刑事法（総合）	2			春	岩瀬徹 照沼亮 介	3	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1	
LWS30301	刑事法（総合）	2			春	岩瀬徹 照沼亮 祐	3		
法律実務基礎科目									
LWS21100	法曹倫理	2			春	岩瀬徹 岩崎政孝 塩野谷高	2	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1	
LWS21101	法曹倫理	2			春	岩瀬徹 岩崎政孝 塩野谷高	2		
LWS30400	訴訟実務基礎（民事）	2			秋	*宮崎 謙	2	Aクラス } 同内容 注1 Bクラス }	
LWS30401	訴訟実務基礎（民事）	2			秋	*宮崎 謙	2		
LWS30500	訴訟実務基礎（刑事）	2			春	岩瀬徹 岩崎政孝 塩野谷高	3	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1	
LWS30501	訴訟実務基礎（刑事）	2			春	岩瀬徹 岩崎政孝 塩野谷高	3		
LWS61400	法学実務基礎			2	春	コーディネータ 森下哲郎 石井文晃 *日吉由美子 *南谷英幸 *海老沼英次 *横手聡	1	輪講 隔週	
LWS61100	民法と実務			2	秋	葉玉 匡美	2・3		
LWS60201	会社法と実務			2	春	葉玉 匡美	3		
LWS60300	応用訴訟実務			2	秋	葉玉 匡美	3		
LWS60401	要件事実と法曹実務			2	秋	石井文晃 *柳澤宏輝 *森大樹	3	輪講	

登録番号	授 業 科 目 名	単 位			開 講 期	担 当 者		履修 年次	備 考
		必 修	選 必	選 択		氏 名			
LWS61200	環境法と実務			1	秋	越智敏裕 筑紫圭一	2・3	隔年開講 秋学期前半 注5	
(A 群・実務演習科目)									
LWS50100	公共法務演習		2		秋	高見勝利 *羽原根一 進成	2	輪講 注3	
LWS50200	企業法務演習		2		秋	石井文晃 伊藤雄司	2	共同担当 注3	
LWS50300	環境法実務演習		2		秋	北村喜宣 越智敏裕	2	共同担当 注3	
LWS50400	金融法実務演習		2		春	和仁亮裕 *森下哲朗 前田博	2	共同担当 注3	
LWS55000	生活法実務演習		2		秋	福田誠司 *田中千草	2	共同担当 注3	
(B 群・実務科目)									
LWS50600	模擬裁判（民事）		2		春	安西明子 *岩崎政孝 宮崎謙	3	共同担当 隔週 注3	
LWS50700	模擬裁判（刑事）		2		秋	岩瀬徹 岩崎政孝 塩野谷高	3	共同担当 注3	
LWS50800	ネゴシエイション・ロイヤリング		2		春	石井文晃 森下哲朗	3	共同担当 春学期集中講義 注3	
LWS50900	法文書作成		2		秋	葉玉匡美 岩崎政孝	3	輪講 注3	
LWS51000	リーガルライティング		2		秋	和仁亮裕 平川雄士	3	輪講 注3	
LWS51100	刑事実務		2		秋	岩瀬徹 塩野谷高	3	輪講 注3	
LWS51200	リーガルクリニック		2		春	コーディネータ 岩瀬徹 コーディネータ 原強 *馬場望 *松田道佐 *鈴木潤子 *多田雪 *池田泰介	3	共同担当 隔週 春学期・秋学期同内容	
LWS51201	リーガルクリニック		2		秋	コーディネータ 岩瀬徹 コーディネータ 原強 *大楠健一 *南谷英幸 *高橋弘子 *森岡耕子 *谷川行太雄	3	各年同担当者員 15名 注1 隔週注3 春学期・秋学期同内容 各クラス定員 15名 注2 注3	

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者	履修年次	備考
		必修	選択	選択		氏名		
LWS5133S	エクスターンシップⅠ（法曹）		1		春	和裕子 小石晃 北野宣 野平志 平石禎 *石権洋	2・3	春学期集中講義 注3
LWS5133A	エクスターンシップⅠ（法曹）		1		秋	和裕子 小石晃 北野宣 野平志 平石禎 *石権洋	2・3	秋学期集中講義 注3
LWS5134S	エクスターンシップⅠ（企業等）		1		春	和裕子 小石晃 北野宣 野平志 平石禎 *石権洋	2・3	春学期集中講義 注3
LWS5134A	エクスターンシップⅠ（企業等）		1		秋	和裕子 小石晃 北野宣 野平志 平石禎 *石権洋	2・3	秋学期集中講義 注3
LWS5135S	エクスターンシップⅠ（公務）		1		春	和裕子 小石晃 北野宣 野平志 平石禎 *石権洋	2・3	春学期集中講義 注3
LWS5135A	エクスターンシップⅠ（公務）		1		秋	和裕子 小石晃 北野宣 野平志 平石禎 *石権洋	1～3	秋学期集中講義 注3
LWS5136S	エクスターンシップⅡ（公務）		1		春	和裕子 小石晃 北野宣 野平志 平石禎 *石権洋	1～3	春学期集中講義 注3

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者	履修年次	備考
		必修	選択	選択		氏名		
LWS5136A	エクスターンシップⅡ（法曹）		1		秋	和仁亮裕 小幡純子 石野文晃 平喜宣 *石耕志 *権雄士 権田光禎 井田洋	2・3	秋学期集中講義 注3
LWS5137S	エクスターンシップⅡ（企業等）		1		春	和仁亮裕 小幡純子 石野文晃 平喜宣 *石耕志 *権雄士 権田光禎 井田洋	2・3	春学期集中講義 注3
LWS5137A	エクスターンシップⅡ（企業等）		1		秋	和仁亮裕 小幡純子 石野文晃 平喜宣 *石耕志 *権雄士 権田光禎 井田洋	2・3	秋学期集中講義 注3
LWS5138S	エクスターンシップⅡ（公務）		1		春	和仁亮裕 小幡純子 石野文晃 平喜宣 *石耕志 *権雄士 権田光禎 井田洋	1～3	春学期集中講義 注3
LWS5138A	エクスターンシップⅡ（公務）		1		秋	和仁亮裕 小幡純子 石野文晃 平喜宣 *石耕志 *権雄士 権田光禎 井田洋	1～3	秋学期集中講義 注3
LWS51400	国際仲裁・ADR		2		春	石井文晃 *森下哲大 *森口聡	2・3	春学期集中講義 注3
基礎法学・隣接科目								
LWS51500	比較法		2		秋	滝澤正	1～3	
LWS51600	英米法		2		秋	岩田太	1～3	
LWS51700	法哲学		2		秋	奥田純一郎	1～3	
LWS51800	法社会学		2		秋	*太田勝造	1～3	
LWS51900	法と経済学		2		秋	日引聡	1～3	
展開・先端科目								

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者	履修年次	備考
		必修	選択	選択		氏名		
(社会経済法系)								
LWS54900	社会法基礎		2		秋	永野仁美	1~3	
LWS52000	労働法Ⅰ		2		春	富永晃一	2・3	
LWS52100	労働法Ⅱ		2		秋	富永晃一	2・3	
LWS52200	租税法Ⅰ		2		春	平川雄士	2・3	
LWS52300	租税法Ⅱ		2		秋	平川雄士	2・3	
LWS52400	経済法Ⅰ		2		秋	楠茂樹	2・3	
LWS52500	経済法Ⅱ		2		秋	楠茂樹	2・3	
LWS52600	知的財産権法Ⅰ		2		春	駒田泰士	2・3	
LWS52700	知的財産権法Ⅱ		2		秋	駒田泰士	2・3	
LWS52800	倒産処理法		4		春	田頭章一	2・3	週2回
LWS52900	民事執行・保全法		2		秋	原強	2・3	
LWS53000	スポーツ・エンタテインメント法		1		春	コーディネータ *道垣内正人 森下哲朗 *松井真一 *松田俊治 *藤原総一郎 *服部薫 *穴戸一樹	2・3	春学期前半 輪講 注5
LWS53100	医療と法		1		秋	岩田太 奥田純一郎	2・3	秋学期後半 共同担当
LWS54800	金融法		2		秋	和仁亮裕 森下哲朗 野田耕志 *井上聡 *藤田元康	2・3	輪講
(国際関係法系)								
LWS53200	国際法基礎		2		春	江藤淳一	1~3	
LWS53300	国際取引法		2		秋	森下哲朗	2・3	
LWS53400	国際私法		2		春	出口耕自	2・3	
LWS53500	国際家族法		1		秋	出口耕自	2・3	秋学期後半
LWS53600	国際人権法		1		秋	江藤淳一	2・3	秋学期前半 注5
LWS53800	国際取引法の現代的課題		2		春	和仁亮裕	2・3	
LWS53900	国際民事紛争処理		1		春	*道垣内正人	2・3	春学期後半
(環境法系)								
LWS54000	環境法基礎		2		春	筑紫圭一	1~3	
LWS54100	環境法政策		2		春	北村喜宣	2・3	
LWS54200	環境訴訟		2		春	越智敏裕	3	

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者 氏名	履修 年次	備考
		必修	選必	選択				
LWS54400	国際環境法		2		春	堀口健夫	2・3	
MGGE6030	環境経済学 I		2		春	(他)鷲田豊明	2・3	地球環境学専攻開講科目 注4
LWS54600	比較環境法		2		秋	*及川敬貴	2・3	
LWS54700	自然保護法		2		秋	桑原勇進	2・3	
その他								
LWS60500	法と実務入門			1	春	葉玉匡美	1	春学期前半 注5
LWS60600	Law and Practice of International Business Transactions			1	秋	コーディネータ 森下哲朗 *MCGONIGAL, Patric *MCGONIGAL, Tami *GILMORE, David Andrew *細川兼嗣	1~3	秋学期前半 輪講 注5
LWS61500	特殊講義（警察活動と法実務）			1	春	*金山泰介	2・3	春学期前半 注5
研究・論文								
LWS60701	自主研究・論文作成			2	秋	高見勝利	3	
LWS60702	自主研究・論文作成			2	秋	滝澤正	3	
LWS60711	自主研究・論文作成			2	秋	奥富晃	3	
LWS60704	自主研究・論文作成			2	秋	長沼範良	3	
LWS60706	自主研究・論文作成			2	秋	小幡純子	3	
LWS60705	自主研究・論文作成			2	秋	原強	3	
LWS60700	自主研究・論文作成			2	秋	福田誠治	3	
LWS60710	自主研究・論文作成			2	秋	松井智予	3	

注1. クラス指定あり。A、Bクラスの指定は、必ず守ること。

注2. 同一内容であるため、春・秋学期いずれか1科目を履修すること。

注3. この科目は履修中止できない。

注4. この科目は法科大学院の授業日程と異なる場合があるので、事前に法科大学院事務室に確認すること。

注5. 履修中止期間注意

# 2015 年度開講科目担当表

※短縮（2年制）コース新入生の年次は、2年次とする。  
 ※担当者欄の\*印は兼任講師（非常勤講師）を示す。  
 ※前半は学期の前半、後半は学期の後半に授業を行うことを示す。

登録番号	授 業 科 目 名	単 位			開 講 期	担 当 者		履修 年次	備 考
		必 修	選 必	選 択		氏 名			
法 律 基 本 科 目									
LWS10100	憲法基礎	4			春	矢 島 基 美	1	週 2 回	
LWS10200	行政法基礎	2			春	古 城 誠	1・2		
LWS10300	民法基礎Ⅰ	4			春	奥 富 晃	1	週 2 回	
LWS10400	民法基礎Ⅱ	4			秋	伊 藤 栄 寿	1	週 2 回	
LWS10500	民法基礎Ⅲ	2			秋	羽 生 香 織	1		
LWS10600	商法基礎	4			秋	野 田 耕 志	1	週 2 回	
LWS10700	民事訴訟法基礎	4			秋	田 頭 章 一	1	週 2 回	
LWS10800	刑法基礎	4			春	伊 藤 渉	1	週 2 回	
LWS10900	刑事訴訟法基礎	2			秋	三 好 幹 夫	1		
LWS20100	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	Aクラス	} 同内容 注 1
LWS20101	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	Bクラス	
LWS20200	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	Aクラス	} 同内容 注 1
LWS20201	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	Bクラス	
LWS20300	民法Ⅰ	4			春	福 田 誠 治	2	Aクラス	} 同内容 週 2 回 注 1
LWS20301	民法Ⅰ	4			春	福 田 誠 治	2	Bクラス	
LWS20400	民法Ⅱ	4			春	小 山 泰 史	2	Aクラス	} 同内容 週 2 回 注 1
LWS20401	民法Ⅱ	4			春	小 山 泰 史	2	Bクラス	
LWS21500	商法Ⅰ	2			春	松 井 智 予	2	Aクラス	} 同内容 注 1
LWS21501	商法Ⅰ	2			春	松 井 智 予	2	Bクラス	
LWS21600	商法Ⅱ	2			秋	松 井 智 予	2	Aクラス	} 同内容 注 1
LWS21601	商法Ⅱ	2			秋	松 井 智 予	2	Bクラス	
LWS20600	民事訴訟法Ⅰ	2			春	原 強	2	Aクラス	} 同内容 注 1
LWS20601	民事訴訟法Ⅰ	2			春	原 強	2	Bクラス	
LWS20700	民事訴訟法Ⅱ	2			秋	原 強	2	Aクラス	} 同内容 注 1
LWS20701	民事訴訟法Ⅱ	2			秋	原 強	2	Bクラス	
LWS20800	刑法	2			秋	照 沼 亮 介	2	Aクラス	} 同内容 注 1
LWS20801	刑法	2			秋	照 沼 亮 介	2	Bクラス	



登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者		履修年次	備考
		必修	選択	選択		氏名			
LWS21400	刑事訴訟法	4			秋	長 沼 範 良	2	Aクラス } 同内容 Bクラス } 週2回 注1	
LWS21401	刑事訴訟法	4			秋	長 沼 範 良	2		
LWS30100	公法（総合）	2			春	小 筑 島 慎 司 筑 紫 圭 一	3	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1	
LWS30101	公法（総合）	2			春	小 筑 島 慎 司 筑 紫 圭 一	3		
LWS30200	民法法（総合）	2			春	田 頭 章 一 石 井 文 晃 辻 野 田 耕 志	3	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1	
LWS30201	民法法（総合）	2			春	田 頭 章 一 石 井 文 晃 辻 野 田 耕 志	3		
LWS30300	刑事法（総合）	2			春	三 好 幹 夫 照 沼 亮 介	3	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1	
LWS30301	刑事法（総合）	2			春	三 好 幹 夫 照 沼 亮 祐	3		
LWS61600	法学実務基礎 I			2	春	コーディネーター 森 下 哲 郎 石 井 文 晃 *新 沼 谷 英 幸 *南 老 沼 次 *横 手 聡	1	2015年度以降入学の 標準(3年制)コース対象 輪講 隔週	
LWS61700	法学実務基礎 II			1	秋	コーディネーター 矢 島 基 美 伊 藤 栄 寿 *金 藤 涉 良 *浦 谷 洋 行 *萩 西 美 保 *松 原 井 智	1	2015年度以降入学の 標準(3年制)コース対象 輪講 隔週	
法律実務基礎科目									
LWS21100	法曹倫理	2			春	三 好 幹 夫 岩 崎 政 孝 塩 野 谷 高	2	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1	
LWS21101	法曹倫理	2			春	三 好 幹 夫 岩 崎 政 孝 塩 野 谷 高	2		
LWS30400	訴訟実務基礎（民事）	2			秋	*三 上 乃 理 子	2	Aクラス } 同内容 注1 Bクラス }	
LWS30401	訴訟実務基礎（民事）	2			秋	*三 上 乃 理 子	2		
LWS30500	訴訟実務基礎（刑事）	2			春	三 好 幹 夫 岩 崎 政 孝 塩 野 谷 高	3	Aクラス } 同内容 Bクラス } 輪講 注1	
LWS30501	訴訟実務基礎（刑事）	2			春	三 好 幹 夫 岩 崎 政 孝 塩 野 谷 高	3		

登録番号	授 業 科 目 名	単 位			開 講 期	担 当 者		履修 年次	備 考
		必 修	選 必	選 択		氏 名			
LWS61100	民法と実務			2	秋	葉 玉 匡 美		2・3	
LWS60201	会社法と実務			2	春	葉 玉 匡 美		3	
LWS60300	応用訴訟実務			2	秋	葉 玉 匡 美		3	
LWS60401	要件事実と法曹実務			2	秋	石 井 文 晃 *柳 澤 宏 輝 *森 大 樹		3	輪講
(A 群・実務演習科目)									
LWS50100	公共法務演習		2		秋	高 見 勝 利 小 幡 純 子 *羽 原 勇 一		2	輪講 注3
LWS50200	企業法務演習		2		秋	石 井 文 晃 伊 藤 雄 司		2	共同担当 注3
LWS50300	環境法実務演習		2		秋	北 村 喜 宣 越 智 敏 裕		2	共同担当 注3
LWS50400	金融法実務演習		2		春	和 仁 亮 裕 *森 下 哲 朗 *前 田 博		2	共同担当 注3
LWS55000	生活法実務演習		2		秋	福 田 誠 治 *田 中 千 草		2	共同担当 注3
(B 群・実務科目)									
LWS50600	模擬裁判（民事）		2		春	安 西 明 子 岩 崎 政 孝 三 上 乃 理子		3	共同担当 隔週 注3
LWS50700	模擬裁判（刑事）		2		秋	三 好 幹 夫 岩 崎 政 孝 塩 野 谷 高		3	共同担当 注3
LWS50800	ネゴシエイション・ロイヤリング		2		春	石 井 文 晃 森 下 哲 朗		3	共同担当 春学期集中講義 注3
LWS50900	法文書作成		2		秋	葉 玉 匡 美 平 川 雄 士		3	輪講 注3
LWS51100	刑事実務		2		秋	三 好 幹 夫 塩 野 谷 高		3	輪講 注3
LWS51200	リーガルクリニック		2		春	コーディネータ 岩 崎 政 孝 コーディネータ 原 強 *馬 場 望 *松 田 道 佐 *鈴 木 潤 子 *池 田 泰 介		3	共同担当 隔週 春学期・秋学期同内容

各クラス定員 15 名  
注 2 注 3

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者	履修年次	備考
		必修	選択	選択		氏名		
LWS51201	リーガルクリニック		2		秋	コーディネーター 岩崎政孝 コーディネーター 原健一 *大南 榑英幸 *高橋弘子 *森岡耕行 *谷川行太雄	3	共同担当 隔週 春学期・秋学期同内容 各クラス定員 15 名 注 2 注 3
LWS5133S	エクスターンシップ I (法曹)		1		春	和小石北野平石権 仁幡井村田川井田 亮純文喜耕雄光 裕子晃宣志士禎洋	2・3	春学期集中講義 注 3
LWS5133A	エクスターンシップ I (法曹)		1		秋	和小石北野平石権 仁幡井村田川井田 亮純文喜耕雄光 裕子晃宣志士禎洋	2・3	秋学期集中講義 注 3
LWS5134S	エクスターンシップ I (企業等)		1		春	和小石北野平石権 仁幡井村田川井田 亮純文喜耕雄光 裕子晃宣志士禎洋	2・3	春学期集中講義 注 3
LWS5134A	エクスターンシップ I (企業等)		1		秋	和小石北野平石権 仁幡井村田川井田 亮純文喜耕雄光 裕子晃宣志士禎洋	2・3	秋学期集中講義 注 3
LWS5135S	エクスターンシップ I (公務)		1		春	和小石北野平石権 仁幡井村田川井田 亮純文喜耕雄光 裕子晃宣志士禎洋	1~3	春学期集中講義 注 3
LWS5135A	エクスターンシップ I (公務)		1		秋	和小石北野平石権 仁幡井村田川井田 亮純文喜耕雄光 裕子晃宣志士禎洋	1~3	秋学期集中講義 注 3

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者		履修年次	備考		
		必修	選択	選択		氏名					
LWS5136S	エクスターンシップⅡ（法曹）		1		春	和 小 石 北 野 平 * * 石 権	仁 幡 井 村 田 川 井 田	亮 純 文 喜 耕 雄 光	裕 子 晃 宣 志 士 禎 洋	2・3	春学期集中講義 注3
LWS5136A	エクスターンシップⅡ（法曹）		1		秋	和 小 石 北 野 平 * * 石 権	仁 幡 井 村 田 川 井 田	亮 純 文 喜 耕 雄 光	裕 子 晃 宣 志 士 禎 洋	2・3	秋学期集中講義 注3
LWS5137S	エクスターンシップⅡ（企業等）		1		春	和 小 石 北 野 平 * * 石 権	仁 幡 井 村 田 川 井 田	亮 純 文 喜 耕 雄 光	裕 子 晃 宣 志 士 禎 洋	2・3	春学期集中講義 注3
LWS5137A	エクスターンシップⅡ（企業等）		1		秋	和 小 石 北 野 平 * * 石 権	仁 幡 井 村 田 川 井 田	亮 純 文 喜 耕 雄 光	裕 子 晃 宣 志 士 禎 洋	2・3	秋学期集中講義 注3
LWS5138S	エクスターンシップⅡ（公務）		1		春	和 小 石 北 野 平 * * 石 権	仁 幡 井 村 田 川 井 田	亮 純 文 喜 耕 雄 光	裕 子 晃 宣 志 士 禎 洋	1～3	春学期集中講義 注3
LWS5138A	エクスターンシップⅡ（公務）		1		秋	和 小 石 北 野 平 * * 石 権	仁 幡 井 村 田 川 井 田	亮 純 文 喜 耕 雄 光	裕 子 晃 宣 志 士 禎 洋	1～3	秋学期集中講義 注3
LWS51400	国際仲裁・ADR		2		春	石 森 * * 森	井 下 口	文 哲 大	晃 朗 樹 聡	2・3	春学期集中講義 注3
基礎法学・隣接科目											
LWS51500	比較法		2		秋	滝 澤	正			1～3	
LWS51600	英米法		2		春	岩 田	太			1～3	

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者	履修年次	備考
		必修	選択	選択		氏名		
LWS51700	法哲学		2		秋	奥田純一郎	1～3	
LWS51800	法社会学		2		秋	*太田勝造	1～3	
LWS51900	法と経済学		2		秋	*日引聡	1～3	
LWS55100	西洋法制史		2		春	松本尚子 福田誠治	1～3	共同担当
展開・先端科目								
(社会経済法系)								
LWS54900	社会法基礎		2		秋	永野仁美	1～3	
LWS52000	労働法Ⅰ		2		春	富永晃一	2・3	
LWS52100	労働法Ⅱ		2		秋	富永晃一	2・3	
LWS52200	租税法Ⅰ		2		春	平川雄士	2・3	
LWS52300	租税法Ⅱ		2		秋	平川雄士	2・3	
LWS52400	経済法Ⅰ		2		春	楠茂樹	2・3	
LWS52500	経済法Ⅱ		2		秋	楠茂樹	2・3	
LWS52600	知的財産権法Ⅰ		2		春	駒田泰士	2・3	
LWS52700	知的財産権法Ⅱ		2		秋	駒田泰士	2・3	
LWS52800	倒産処理法		4		春	田頭章一	2・3	週2回
LWS52900	民事執行・保全法		2		秋	原強	2・3	
LWS53000	スポーツ・エンタテインメント法		1		春	コーディネータ *道垣内正人 森下哲朗 *松井真一 *松田俊治 *藤原総一郎 *服部薫 *穴戸一樹	2・3	春学期前半 輪講 注5
LWS54800	金融法		2		秋	和仁亮裕 森下哲朗 *井上聡 *藤田元康	2・3	輪講
(国際関係法系)								
LWS53200	国際法基礎		2		春	江藤淳一	1～3	
LWS53300	国際取引法		2		秋	森下哲朗	2・3	
LWS53400	国際私法		2		春	出口耕自	2・3	
LWS53500	国際家族法		1		秋	出口耕自	2・3	秋学期後半
LWS53600	国際人権法		1		秋	江藤淳一	2・3	秋学期前半 注5
LWS53700	国際経済法		2		秋	川瀬剛志	3	
LWS53800	国際取引法の現代的課題		2		春	和仁亮裕	2・3	

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者 氏名	履修 年次	備考
		必修	選択	選択				
LWS53900	国際民事紛争処理		1		春	*道垣内 正人	2・3	春学期後半
(環境法系)								
LWS54000	環境法基礎		2		春	筑紫圭一	1～3	
LWS54100	環境法政策		2		春	北村喜宣	2・3	
LWS54200	環境訴訟		2		春	越智敏裕	3	
LWS54300	企業環境法		2		秋	筑紫圭一	2・3	
LWS54400	国際環境法		2		春	堀口健夫	2・3	
MGGE6025	環境リスクマネジメント		2		秋	織 朱 實	1～3	地球環境学専攻開講科目 注4
LWS54500	環境刑法		1		春	*嘉屋朋信	2・3	春学期前半 注5
LWS54600	比較環境法		2		秋	*及川敬貴	2・3	
LWS54700	自然保護法		2		秋	桑原勇進	2・3	
その他								
LWS60500	法と実務入門			1	春	葉玉匡美	1	春学期前半 注5
LWS60600	Law and Practice of International Business Transactions			1	秋	コーディネータ 森下哲朗 *MCGONIGAL, Patric *MCGONIGAL, Tami *GILMORE, David Andrew *細川兼嗣	1～3	秋学期前半 輪講 注5
LWS61500	特殊講義（警察活動と法実務）			1	春	*金山泰介	2・3	春学期前半 注5
MLLW7680	環境法研究Ⅰ			2	春	北村喜宣	1～3	法学専攻開講科目 注4
MLLW7710	環境法研究Ⅳ			2	春	桑原勇進	1～3	法学専攻開講科目 注4
MLLW7730	環境法研究Ⅵ			2	春	越智敏裕	1～3	法学専攻開講科目 注4
MLLW7890	環境法研究Ⅶ			2	秋	筑紫圭一	1～3	法学専攻開講科目 注4
MLLW7900	環境学研究Ⅰ			2	春	大和田滝恵	1～3	法学専攻開講科目 注4
MLLW7910	環境学研究Ⅱ			2	秋	大和田滝恵	1～3	法学専攻開講科目 注4
研究・論文								
LWS60701	自主研究・論文作成			2	秋	高見勝利	3	
LWS60702	自主研究・論文作成			2	秋	滝澤 正	3	
LWS60704	自主研究・論文作成			2	秋	長沼範良	3	
LWS60706	自主研究・論文作成			2	秋	小幡純子	3	
LWS60705	自主研究・論文作成			2	秋	原 強	3	
LWS60700	自主研究・論文作成			2	秋	福田誠治	3	
LWS60710	自主研究・論文作成			2	秋	松井智予	3	

注1. クラス指定あり。A、Bクラスの指定は、必ず守ること。  
注2. 同一内容であるため、春・秋学期いずれか1科目を履修すること。  
注3. この科目は履修中止できない。

注 4. この科目は法科大学院の授業日程と異なる場合がありますので、事前に法科大学院事務室に確認すること。  
注 5. 履修中止期間注意

## 別紙2 [授業アンケート結果]



法科大学院アンケート（2013年度後期分）について

1. 2013年度の数値の経年比較（全体として、2013年後期の授業の質は改善したか？）

	1年基本				2年基本		
	2011 後期	2012 後期	2013 後期		2011 後期	2012 後期	2013 後期
予習	3.59	3.71	3.82	予習	3.76	3.69	3.55
復習	3.74	3.76	3.79	復習	3.8	3.78	3.67
難易度	2.6	2.68	2.65	難易度	2.88	2.55	2.43
課題の量	2.7	2.81	2.8	課題の量	2.99	2.75	2.64
授業の量	2.78	2.8	2.8	授業の量	2.98	2.71	2.6
やりとり	2.36	2.42	2.38	やりとり	2.39	2.41	2.46
質問	3.81	3.76	3.61	質問	3.62	3.8	3.78
教材	3.75	3.86	3.52	教材	3.5	3.54	3.42
説明	3.61	3.53	3.41	説明	3.43	3.53	3.64
理解	3.01	3.22	3.03	理解	3.24	2.95	2.84
期待	2.57	2.54	2.42	期待	2.47	2.44	2.54
好奇心	3.47	3.54	3.31	好奇心	3.45	3.44	3.54
満足	3.65	3.62	3.46	満足	3.47	3.49	3.56

	実務				展開先端		
	2011 後期	2012 後期	2013 後期		2011 後期	2012 後期	2013 後期
予習	3.47	3.73	3.51	予習	4.24	4.21	4.27
復習	3.8	4.08	3.98	復習	4.18	4.25	4.3
難易度	2.58	2.53	2.43	難易度	2.85	2.77	2.71
課題の量	2.65	2.79	2.55	課題の量	2.92	2.97	2.89
授業の量	2.67	2.77	2.51	授業の量	2.9	2.95	2.9
やりとり	2.71	2.56	2.62	やりとり	2.66	2.57	2.59
質問	3.96	3.91	3.93	質問	3.99	3.83	3.83
教材	3.81	3.55	3.76	教材	3.87	3.74	3.89
説明	3.88	3.54	3.64	説明	3.9	3.85	3.76
理解	3.14	3.07	2.95	理解	3.26	3.34	3.32
期待	2.77	2.52	2.65	期待	2.69	2.73	2.71
好奇心	3.8	3.61	3.64	好奇心	3.87	3.85	3.74
満足	3.93	3.63	3.74	満足	3.94	4.04	3.94

	基礎隣接		
	2011 後期	2012 後期	2013 後期
予習	4.64	4.26	4.53
復習	4.52	4.53	4.3
難易度	2.82	2.76	2.56
課題の量	3.02	2.89	2.86
授業の量	2.91	2.86	2.74
やりとり	2.45	2.35	2.35
質問	3.55	3.43	3.65
教材	3.42	3.81	3.41
説明	3.46	3.64	3.35
理解	3.41	3.26	3.1
期待	2.52	2.56	2.39
好奇心	3.74	3.51	3.28
満足	3.63	3.55	3.36

- 1 1年基本科目の予習復習の時間は減少し、難易度や負担感などは下がっている  
（予習復習を減らしてもなお難易度が上がっていないので、学生に余力が出ているといえる）
- 2 2年基本科目は、年々学生が難しいと感じるようになり、予習復習の負担が増している。

学生の質や1年目の蓄積との関連がありうるが、学生の現状に応じた対応が必要。

- 3 実務基礎科目は今年度難しいと感じる学生が増えた。前年より課題が増えて予習時間が伸び、授業中のフォローが昨年より手厚く、満足度も上がったものの、理解度が下がっている。
- 4 展開・先端科目も難易度が若干上がっているが、予習復習の時間が減った影響とも考えられる。一方で授業面でのフォロー（教材）の評価がよくなっており、理解度満足度はともに高い。
- 5 基礎隣接科目も難易度が上がっている。授業面で質問がより使われて予習復習時間が増えた一方、学生の興味（理解・期待・好奇心）が薄れたことで、満足度が下がっているように感じられる。

1年・2年基本科目の差が目立っており、標準コース学生の理解度によっては連携する必要がある。従来モチベーションが高いと考えられてきた実務・基礎隣接を受講する学生にも変化があり、対応が必要。

## 2. 学生の到達度（学年ごとに比較して、学生の水準と授業のレベルは合っているか？）

2011年入学					2012年入学			
2011 後期 1年基本	2012 前期 2年基本	2012 後期 2年基本	2013 前期 3年基本	2013 後期 展開先端		2012 後期 1年基本	2013 前期 2年基本	2013 後期 2年基本
3.59	3.36	3.69	3.63	4.27	予習	3.71	3.51	3.55
3.74	4.04	3.78	3.83	4.3	復習	3.76	3.97	3.67
2.6	2.48	2.55	2.44	2.71	難易度	2.68	2.57	2.43
2.7	2.61	2.75	2.78	2.89	課題の量	2.81	2.75	2.64
2.78	2.5	2.71	2.74	2.9	授業の量	2.8	2.62	2.6
2.36	2.43	2.41	2.44	2.59	やりとり	2.42	2.57	2.46
3.81	3.78	3.8	3.84	3.83	質問	3.76	3.89	3.78
3.75	3.49	3.54	3.56	3.89	教材	3.86	3.45	3.42
3.61	3.38	3.53	3.39	3.76	説明	3.53	3.53	3.64
3.01	2.88	2.95	2.85	3.32	理解	3.22	3.01	2.84
2.57	2.43	2.44	2.52	2.71	期待	2.54	2.49	2.54
3.47	3.51	3.44	3.43	3.74	好奇心	3.54	3.6	3.54
3.65	3.42	3.49	3.51	3.94	満足	3.62	3.59	3.56

- 1 2012年度入学生は、1年基本科目をより簡単と感じるものの割合が増え、予習復習の時間が減ったが、2年基本になると前期の難易度・量はともにまだこなせているように感じているものの復習の時間が若干増え、後期になると授業や課題を難しいと感じる学生が増え、予習復習ともに前年度より時間をかけている。
- 2 どちらの学年も年次が進むにつれ授業の難易度が上がり、理解度が低くなるが、2012年度学生は、2011年度学生より前期に余裕を感じていた分後期で苦しんでいる。また、2011年度より好奇心や期待が一般的に高く、2年になってこの数値が高くなっているため理解度が下がっても満足度が高い。
- 3 2年次教員の授業でのやり取り説明が前年度より手厚く、現在の2年生は授業を面白いと感じているが、教材や質問の評価は下がっており、より「理解につながる」発信を考える余地はある（好奇心を刺激するという授業スタイルのほうがよいとしても、理解度の顕著な低下は別途問題があるのではないか。）
- 4 現在の3年生は、予習復習のスタイルや難易度・理解などについての評価は学年を通じて比較的安定していたが、先般のTKCの結果は思わしくない。GPAと合格率には相関があるとされているが、授業の理解度のクラス平均と成績とは直結するの（学生の授業理解と成績は直結しているか）？

法科大学院アンケート（2014 年度春学期中間分）について

(1) 全体的な傾向（2013 年度春学期との比較）

項目	分類	1年基本		2年基本		3年基本		実務		展開先端その他		
		2013	2014	2013	2014	2013	2014	2013	2014	2013	2014	
2	予習	3,74	3,53	3,51	3,60	3,63	3,53	4,03	3,95	4,26	4,23	大きいほど短い
3	復習	3,71	2,88	3,97	3,99	3,83	3,63	4,21	3,79	4,28	4,17	
4	難易度	2,71	2,30	2,57	2,38	2,44	2,38	2,84	2,69	2,78	2,76	3が丁度よく、小さいほど難・多
5	授業の量	2,83	2,42	2,75	2,54	2,78	2,86	2,88	2,81	2,97	2,87	
6	課題の量	2,94	2,68	2,62	2,46	2,74	2,91	2,81	2,76	2,97	2,85	大きいほど高評価：7と12は3が満点
7	やりとり	2,17	2,51	2,57	2,49	2,44	2,58	2,72	2,83	2,62	2,57	
8	質問	3,78	4,16	3,89	3,91	3,84	3,89	4,04	4,21	3,90	3,80	
9	教材	3,41	3,95	3,45	3,45	3,56	3,59	3,76	3,88	4,01	3,90	
10	説明	3,33	3,67	3,53	3,46	3,39	3,49	3,85	3,84	4,02	3,74	
11	理解	3,11	2,91	3,01	2,89	2,85	2,85	3,38	3,16	3,25	3,11	
12	期待	2,36	2,58	2,49	2,40	2,52	2,60	2,64	2,78	2,77	2,71	
13	好奇心	3,40	3,87	3,60	3,50	3,43	3,52	3,75	3,84	3,96	3,75	
14	満足	3,36	3,88	3,59	3,51	3,51	3,61	3,86	3,94	4,10	3,80	

<マークシート項目>

2. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい予習の時間をかけていますか？  
①7時間以上、②5~7時間、③3~5時間、④1~3時間、⑤0~1時間
3. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい復習の時間をかけていますか？  
①5時間以上、②3~5時間、③2~3時間、④1~2時間、⑤0~1時間
4. この授業の難易度はどうですか？  
①難しすぎる、②ちょっと難しい、③ちょうどよい、④ちょっとやさしい、⑤やさしすぎる
5. 授業内容の量について、どう思いますか？  
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
6. 1回ごとの授業の前後の課題の量について、どう思いますか？  
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
7. 授業中の教員と学生のやりとりは授業の質を高めるうえで効果的に行われていると思いますか？  
①思わない、②普通である、③思う
8. 学生の質問に対する教員の対応はどうですか？  
①不熱心である、②あまり熱心でない、③普通である、④熱心である、⑤大変熱心である
9. 教科書、テキスト、配布資料などは、授業を分かりやすく内容の濃いものにするために有効に活用されていますか？  
①まったく活用されていない、②あまりよく活用されていない、③まあまあ、④よく活用している、⑤大変よく活用されている
10. 教員の説明の仕方はわかりやすいですか？  
①非常にわかりにくい、②わかりにくい、③普通である、④わかりやすい、⑤非常にわかりやすい
11. あなたは授業についていけていると思いますか？  
①全くついていけない、②少しついていけない、③何とかついていけている、④ついていけている、⑤楽についていけている
12. 履修を終えた段階で、あなたがこの授業に期待したものを得られると思いますか？  
①思わない、②まだよくわからない、③思う
13. この授業は知的好奇心を刺激され、楽しいですか？  
①まったく楽しくない、②あまり楽しくない、③普通、④楽しい、⑤とても楽しい
14. この授業に対する総合評価を5段階でしてください。  
①非常に不満である、②やや不満である、③普通である、④ほぼ満足している、⑤大変満足している

(2) 項目2~3について

2年基本の予習を除いて、学習（予習・復習）の時間が伸びている。この傾向は、1年基本科目の復習について顕著である。

(3) 項目4~6について

授業・課題の量は増加傾向にあり、難易度は難化傾向にある。教員は熱心だが、学生は消化不良ということになっている恐れがある。

(4) 項目7~13について

理解度が低下傾向にある。上記3の点も勘案すると、教員によるなお一層の創意工夫（わかりやすい授業）が求められている。

(5) 項目14について

最高点：4,50（2013年度春学期：4,39）  
4以上の科目：14（2013年度春学期：13）  
3未満の科目：2（2013年度春学期：2）

(6) 自由記述について

- 1 司法試験に直結する内容や答案の書き方を教えてほしいという声が多い。
  - ・ 司法試験のための情報をより授業に反映させていただけるとありがたい。
  - ・ 司法試験を意識した授業をして欲しい。
  - ・ 司法試験を受ける上で学説の対立の理解が必要なのか。
  - ・ 学説の深い説明より、答案に書くべきことを説明してほしい。
  - ・ ケースブックには、司法試験にとって意味のない設問も多く含まれており、そこに時間を割くのは試験勉強する上で効率的でない。
  - ・ 旧試の過去問（新試改題を含む）を取り上げてほしい。
  - ・ こういう答案はダメということを口頭だけではなくレジュメで見せてもらいたい。何が機械的な答案なのかイメージがつかめない。
  - ・ 教材の解答について、後日に紙（またはTKC上）で配布してほしい。
  - ・ 先生の解答を示してほしい。
  
- 2 個別注文の例
  - ・ 声が小さく聞き取りにくい。
  - ・ 板書の字が小さい。
  - ・ 学生の誤った解答に嘲笑するのをやめてほしい。
  - ・ 判例の重要度をわけたうえで引用してもらいたい。
  - ・ 初めから専門用語を知っていることを前提にしたテキストや教材または説明になっている。
  - ・ レジュメなど教材の量が多すぎて、全てに目を通すことができない。
  - ・ レジュメがわかりやすくなるようレイアウトなどを工夫してもらいたい。
  
- 3 記載なしという科目が、先端展開科目を中心に10科目あった。

法科大学院アンケート（2014年度秋学期、2014年度春学期オムニバス・後半1単位）について

1. 2014年度秋学期科目の数値の経年比較

		1年 基本					2年 基本			
		2011 後期	2012 後期	2013 後期	2014 後期		2011 後期	2012 後期	2013 後期	2014 後期
2	予習	3.59	3.71	3.82	3.75		3.76	3.69	3.55	3.72
3	復習	3.74	3.76	3.79	3.42		3.8	3.78	3.67	3.77
4	難易度	2.6	2.68	2.65	2.59		2.88	2.55	2.43	2.39
5	課題の量	2.7	2.81	2.8	2.73		2.99	2.75	2.64	2.72
6	授業の量	2.78	2.8	2.8	2.81		2.98	2.71	2.6	2.73
7	やりとり	2.36	2.42	2.38	2.65		2.39	2.41	2.46	2.48
8	質問	3.81	3.76	3.61	3.91		3.62	3.8	3.78	3.82
9	教材	3.75	3.86	3.52	3.95		3.5	3.54	3.42	3.48
10	説明	3.61	3.53	3.41	3.65		3.43	3.53	3.64	3.46
11	理解	3.01	3.22	3.03	3.08		3.24	2.95	2.84	2.84
12	期待	2.57	2.54	2.42	2.64		2.47	2.44	2.54	2.44
13	好奇心	3.47	3.54	3.31	3.83		3.45	3.44	3.54	3.48
14	満足	3.65	3.62	3.46	3.87		3.47	3.49	3.56	3.48

		実務					展開先 端			
		2011 後期	2012 後期	2013 後期	2014 後期		2011 後期	2012 後期	2013 後期	2014 後期
2	予習	3.47	3.73	3.51	3.52		4.24	4.21	4.27	4.2
3	復習	3.8	4.08	3.98	3.88		4.18	4.25	4.3	4.18
4	難易度	2.58	2.53	2.43	2.48		2.85	2.77	2.71	2.67
5	課題の量	2.65	2.79	2.55	2.61		2.92	2.97	2.89	2.89
6	授業の量	2.67	2.77	2.51	2.48		2.9	2.95	2.9	2.91
7	やりとり	2.71	2.56	2.62	2.73		2.66	2.57	2.59	2.6
8	質問	3.96	3.91	3.93	4.14		3.99	3.83	3.83	4.09
9	教材	3.81	3.55	3.76	3.81		3.87	3.74	3.89	3.9
10	説明	3.88	3.54	3.64	3.99		3.9	3.85	3.76	3.89
11	理解	3.14	3.07	2.95	2.99		3.26	3.34	3.32	3.15
12	期待	2.77	2.52	2.65	2.44		2.69	2.73	2.71	2.08
13	好奇心	3.8	3.61	3.64	3.88		3.87	3.85	3.74	3.78
14	満足	3.93	3.63	3.74	3.86		3.94	4.04	3.94	3.94

		基礎 隣接			
		2011 後期	2012 後期	2013 後期	2014 後期
2	予習	4.64	4.26	4.53	4.53
3	復習	4.52	4.53	4.3	4.44
4	難易度	2.82	2.76	2.56	2.51
5	課題の量	3.02	2.89	2.86	2.77
6	授業の量	2.91	2.86	2.74	2.8

7	やりとり	2.45	2.35	2.35	2.55
8	質問	3.55	3.43	3.65	3.89
9	教材	3.42	3.81	3.41	3.81
10	説明	3.46	3.64	3.35	3.51
11	理解	3.41	3.26	3.1	3.1
12	期待	2.52	2.56	2.39	2.5
13	好奇心	3.74	3.51	3.28	3.63
14	満足	3.63	3.55	3.36	3.62

## 2. 春学期オムニバス・後半1単位科目の分析

		2年実務 基礎(A)	2年実務 基礎(B)	3年法律 基本① (A)	3年法律 基本① (B)	3年法 律基本 ②(A)	3年法律 基本② (B)	3年実務 基礎(A)	3年実務 基礎(B)	3年展 開・先 端
2	予習	4.11	4.3	3.77	3.89	3.42	3.3	3.84	3.84	4.23
3	復習	4.46	4.44	3.62	3.78	3.77	3.65	4.04	3.94	4.08
4	難易度	2.79	2.63	2.88	2.85	2.54	2.3	2.68	2.61	2.62
5	課題の量	2.68	2.78	3.04	2.96	2.69	2.74	2.6	2.68	2.85
6	授業の量	2.57	2.67	3.08	2.93	2.69	2.78	2.56	2.52	2.92
7	やりとり	2.64	2.56	2.69	2.48	2.62	2.48	2.76	2.45	2.31
8	質問	3.79	3.93	4.27	3.78	3.58	3.96	3.96	3.84	3.46
9	教材	3.39	3.7	3.69	3.81	3.62	3.78	3.56	3.74	3.54
10	説明	3.43	3.74	3.88	3.74	3.23	3.41	3.4	3.47	3.62
11	理解	3.18	3.41	3.23	2.96	3.08	2.63	2.96	2.94	3.08
12	期待	1.75	1.67	1.96	1.56	2.27	1.89	2	1.74	1.92
13	好奇心	3.5	3.56	3.81	3.63	3.12	3.52	3.52	3.65	3.92
14	満足	3.61	3.69	4.16	3.73	3.32	3.58	3.65	3.61	3.46

### 自由記述項目

#### レジュメに関するもの

- ・授業後に講義スライド等の資料をTKCにアップしていただけるとありがたい。
- ・レジュメが図が多いので、概観するのにとても有効。
- ・レジュメの情報量が多く、包括的に網羅していてとても分かり易い。
- ・レジュメがコンパクトに要点がまとまっており、予習・復習がしやすい。
- ・教科書に載っていない詳細の記載があるので、予習・復習しやすい。
- ・スライドを印刷すると枠内の字が表示されない箇所が何カ所かあるので調整していただけるよい。

等

#### 授業中のやり取りに関するもの

- ・スピードが早すぎる。
- ・聞き手の理解、お構いなしの授業進行となっている。
- ・ノートをとる時間がもう少しほしい。
- ・発言を強制しないスタイルが、授業内容に集中出来る。
- ・当て方が不規則すぎて、講義に集中しづらく感じる。

等

法科大学院アンケート（2015年度春学期中間分）について

(1) 全体的な傾向（2014年度春学期との比較）

	分類	1年基本		2年基本		3年基本		実務		展開先端その他		
		2014	2015	2014	2015	2014	2015	2014	2015	2014	2015	
2	予習	3,53	4,00	3,60	3,30	3,53	3,41	3,95	3,70	4,23	4,54	大きいほど短い
3	復習	2,88	3,62	3,99	3,33	3,63	3,51	3,79	3,89	4,17	4,49	
4	難易度	2,30	2,75	2,38	2,49	2,38	2,51	2,69	2,78	2,76	2,63	3が丁度よく、小さいほど難・多
5	授業の量	2,42	2,91	2,54	2,75	2,86	2,95	2,81	2,80	2,87	2,88	
6	課題の量	2,63	2,88	2,46	2,75	2,91	2,89	2,76	2,74	2,85	2,95	大きいほど高評価：7と12は3が満点
7	やりとり	2,51	2,13	2,49	2,68	2,58	2,60	2,83	2,84	2,57	2,71	
8	質問	4,16	3,79	3,91	4,19	3,89	3,99	4,21	4,26	3,80	4,01	
9	教材	3,95	3,67	3,45	3,91	3,59	3,49	3,88	3,91	3,90	3,91	
10	説明	3,67	3,41	3,46	3,77	3,49	3,57	3,84	3,99	3,74	3,65	
11	理解	2,91	3,36	2,89	2,95	2,85	2,84	3,16	3,31	3,11	3,25	
12	期待	2,58	2,45	2,40	2,69	2,60	2,50	2,78	2,71	2,71	2,60	
13	好奇心	3,87	3,50	3,50	3,94	3,52	3,54	3,84	3,94	3,75	3,93	
14	満足	3,88	3,59	3,51	4,00	3,61	3,57	3,94	4,02	3,80	3,89	

<マークシート項目>

2. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい予習の時間をかけていますか？

①7時間以上、②5~7時間、③3~5時間、④1~3時間、⑤0~1時間

3. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい復習の時間をかけていますか？

①5時間以上、②3~5時間、③2~3時間、④1~2時間、⑤0~1時間

4. この授業の難易度はどうですか？

①難しすぎる、②ちょっと難しい、③ちょうどよい、④ちょっとやさしい、⑤やさしすぎる

5. 授業内容の量について、どう思いますか？

①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる

6. 1回ごとの授業の前後の課題の量について、どう思いますか？

①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる

7. 授業中の教員と学生のやりとりは授業の質を高めるうえで効果的に行われていると思いますか？

①思わない、②普通である、③思う

8. 学生の質問に対する教員の対応はどうですか？

①不熱心である、②あまり熱心でない、③普通である、④熱心である、⑤大変熱心である

9. 教科書、テキスト、配布資料などは、授業を分かりやすく内容の濃いものにするために有効に活用されていますか？

①まったく活用されていない、②あまりよく活用されていない、③まあまあ、④よく活用怠れている、⑤大変よく活用されている

10. 教員の説明の仕方はわかりやすいですか？

①非常にわかりにくい、②わかりにくい、③普通である、④わかりやすい、⑤非常にわかりやすい

11. あなたは授業についていけていると思いますか？

①全くついていけていない、②少しついていけていない、③何とかついていけている、④ついていけている、⑤楽についていけている

12. 履修を終えた段階で、あなたがこの授業に期待したものを得られると思いますか？

①思わない、②まだよくわからない、③思う

13. この授業は知的好奇心を刺激され、楽しいですか？

①まったく楽しくない、②あまり楽しくない、③普通、④楽しい、⑤とても楽しい

14. この授業に対する総合評価を5段階でしてください。

①非常に不満である、②やや不満である、③普通である、④ほぼ満足している、⑤大変満足している

(2) 項目2~3について

昨年度は、「2年基本の予習を除いて、学習（予習・復習）の時間が伸びている」「この傾向は、

1年基本科目の復習について顕著である」と記した。今年度は、学習（予習・復習）の時間は全体的に横ばいながら、1年基本科目の復習時間の減少が顕著である。3年コース（未修コース）の活躍が本学法科大学院のセールスポイントとなりつつある現在、1年生の学習時間の減少は懸念材料であろう。

（3）項目4～6について

昨年度は、「授業・課題の量は増加傾向にあり、難易度は難化傾向にある」「教員は熱心だが、学生は消化不良ということになっている恐れがある」と指摘した。この指摘した問題は、今年度ずいぶん改善されたようである。難易度（項目4）は、「展開先端その他」を除き、易化しているし、授業の量（項目5）・課題の量（項目6）も、横ばいであるか、または、評定3（丁度よい）に近づいている。その影響であろう、後述するように理解度（項目11）があがっている。

（4）項目7～13について

昨年度は、「理解度が低下傾向にある」「教員によるなお一層の創意工夫（わかりやすい授業）が求められている」と指摘した。今年度は、3年基本が横ばいなのを除き、理解度（項目11）があがっている。しかし、2年基本と3年基本の理解度が、以前として評定3未満であり、まだまだ授業の改善が十分とまではいえない。

（5）項目14について

全体平均：3,81（2014年度：3,75）

最高点：5,00（2014年度春学期：4,50）※履修者数20以上のクラスの最高点：4,39

4以上の科目：22（2014年度春学期：14）

3未満の科目：1（2014年度春学期：2）

授業の満足度は昨年度に比べてあがっている。ただし、評定4以上の科目数の増加が著しいにもかかわらず、全体平均の増加が0,06にとどまっていることからすると、高評価の授業と低評価の授業に2極分解している恐れがある。

満足（項目14）は、説明（項目10）・好奇心（項目13）と相関関係が深いようであり、理解（項目11）・期待（項目12）とはそれほどでもない。意外なのは、理解度と満足度との間にあまり相関関係がないことである。理解度が低いのに満足度が高い、理解度が高いのに満足度が低いという科目が少なくない。理解度が高い＝満足度が高いとなりそうだけに不思議である。



